

清水建設名古屋支店オフィスオフィス移転に伴うウェルネスとその後

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

第133回建築設備総合ゼミナール

2026年3月18日（水）

清水建設株式会社 設計本部 設備設計部 2部

主任 盛川 岳穂



清水建設株式会社
設計本部 設備設計部2部

主任

盛川 岳穂 (入社7年目)

職 歴

2013年 某建設会社
2018年 清水建設株式会社
以降 - オフィス・複合ビルを担当



2024年 - 名古屋シミズ富国生命ビル竣工



2024年7月 清水建設名古屋支店入居

01 建物コンセプト・概要

02 名古屋支店エリア概要

- ① 支店の皆で考え、皆で創り上げる
- ② 建物本体の特徴を最大限活かしたワークプレイス

03 運用開始後の評価

名駅エリア



丸の内エリア



栄エリア



JRセントラル
タワーズ

大名古屋ビル

国際センタービル

計画地

旧名古屋支店

タマディック

桜通り

日本銀行

久屋
大通り

テレビ塔

アーバン
ネット
名古屋

名古屋駅

ミッドランドスクエア

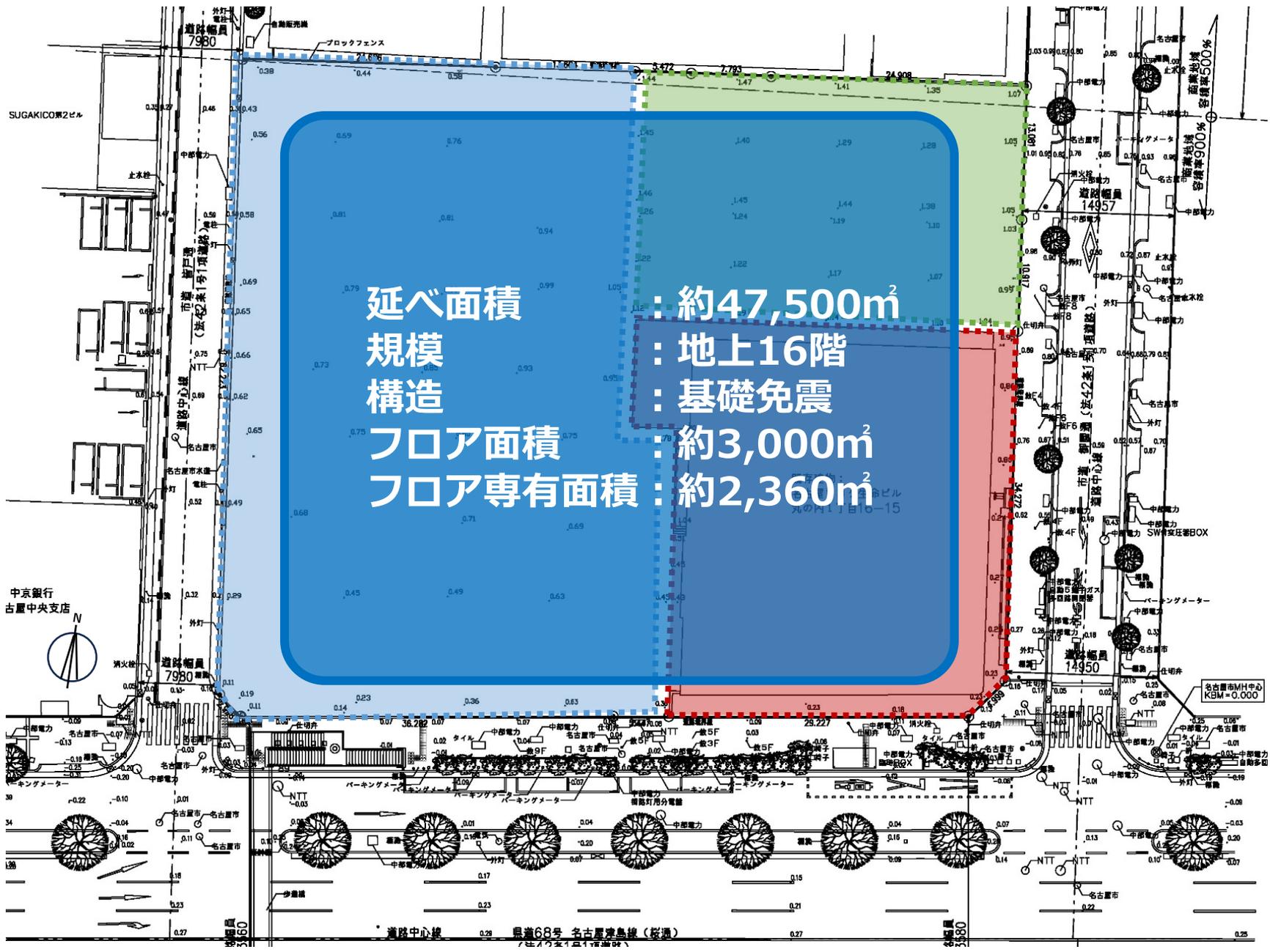
スパイラルタワー

インターシティ

オアシス21

栄駅

中日ビル



延べ面積 : 約47,500㎡
規模 : 地上16階
構造 : 基礎免震
フロア面積 : 約3,000㎡
フロア専有面積 : 約2,360㎡

INPUT

最上級の
耐震安全性能の確保

+

ZEB Ready認証取得
超環境配慮型オフィスの実現

+

名古屋最大規模を誇る
フレキシブルな
ワンプレートオフィスの実現

+

名古屋の地域性を鑑みた
テナントの小分割化と
自走式駐車場の拡充



柱梁の外部化
高い日射遮蔽性能
高いフレキシビリティ

清水建設
名古屋支店

至久屋大通駅

至名古屋駅

- PHF
- 16F
- 15F
- 14F
- 13F
- 12F
- 11F
- 10F
- 9F
- 8F
- 7F
- 6F
- 5F
- 4F
- 3F
- 2F
- 1F

**テナント専用
サードプレイス**

事務所
12分割×12F
144テナント

駐車場
付置義務：64台
設置台数：211台

階構成

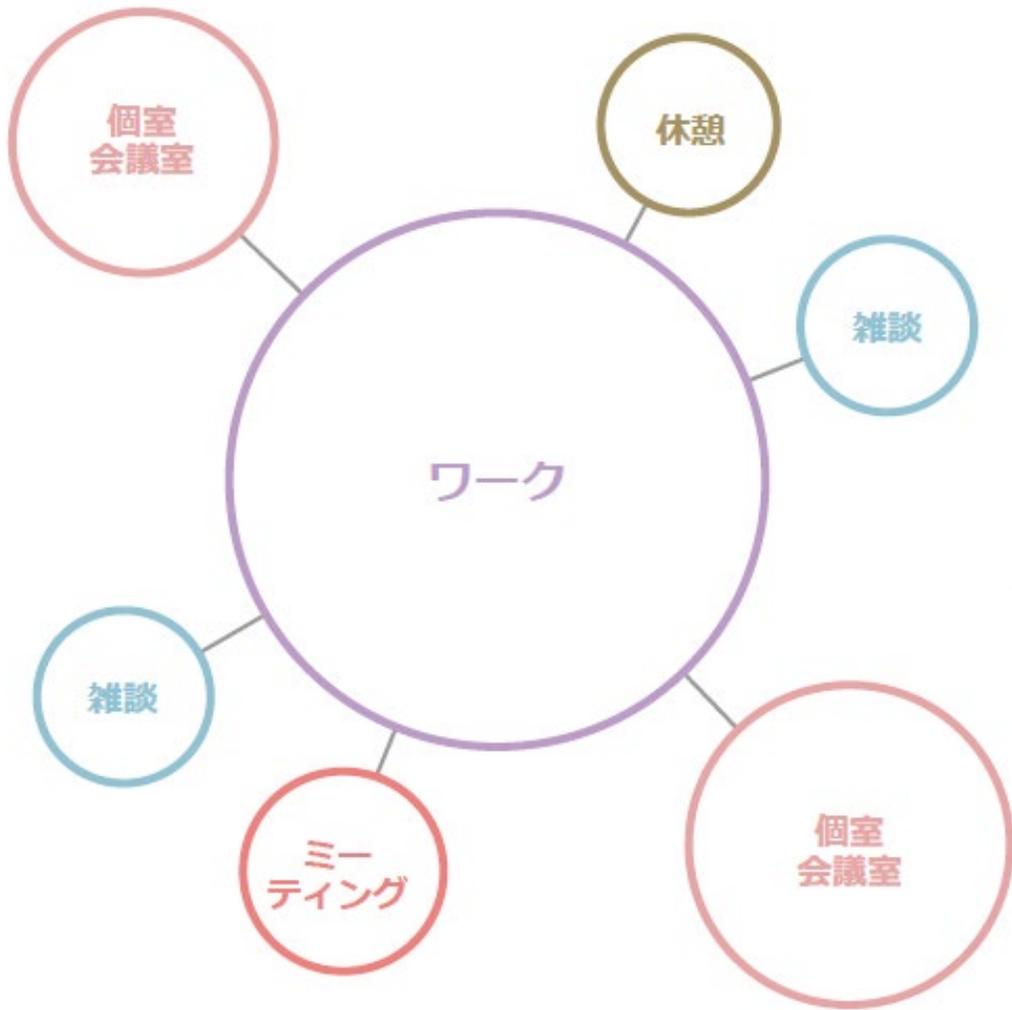


前面道路正面より望む



前面道路西より望む

記憶を継承する、時代に左右されない外装計画



従来のオフィスイメージ

アップグレード
▶▶▶



これからのオフィスイメージ



多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出



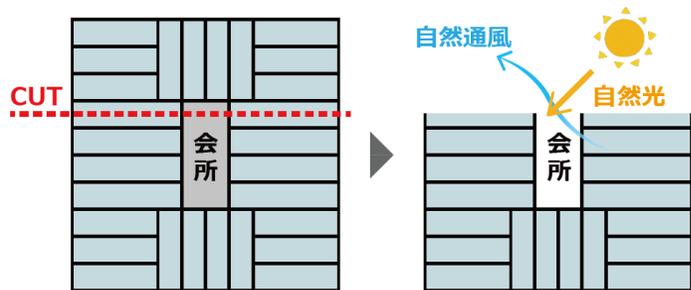


多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出



共用バルコニー

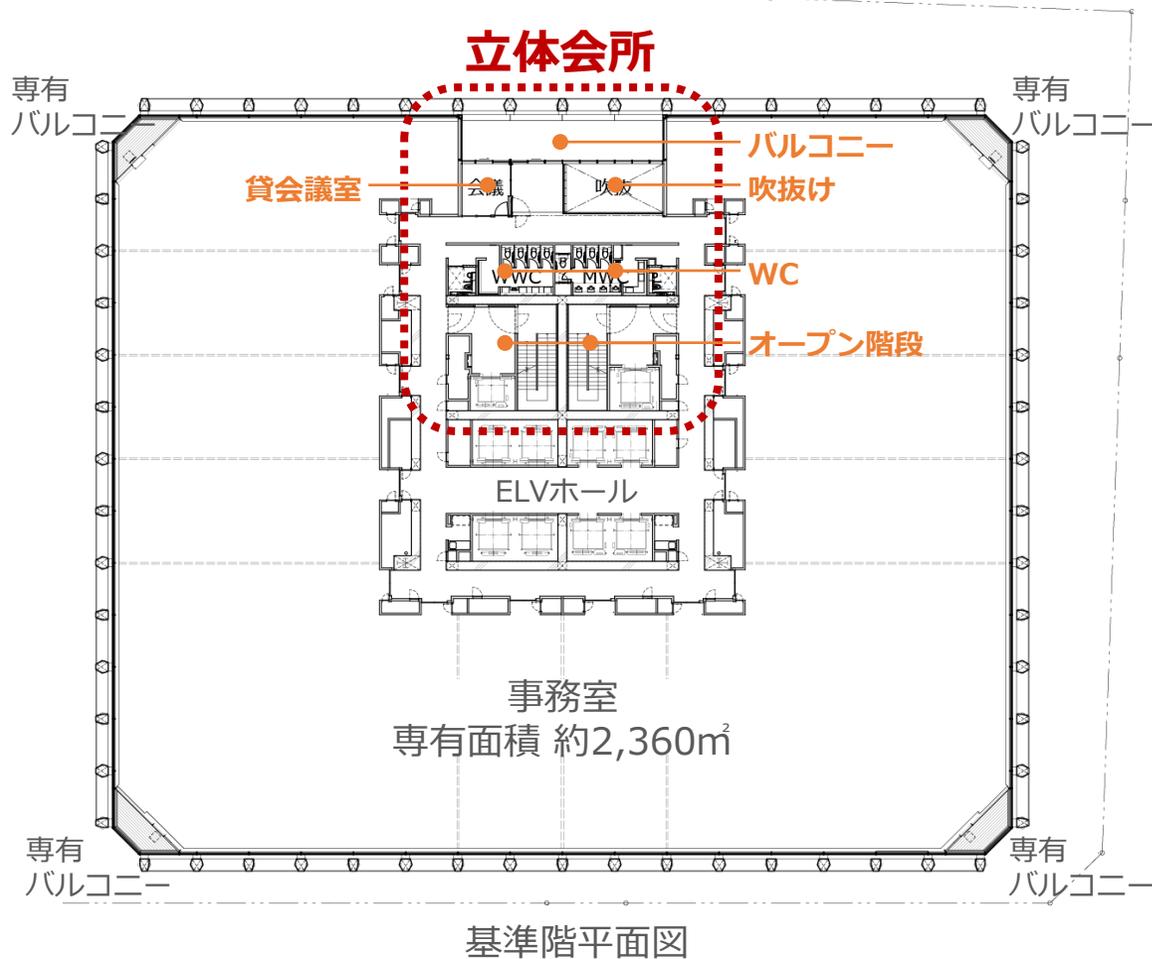
多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出



名古屋の「碁盤割」―光と風を採り込む「立体会所」



ビルに囲まれた桜神社



立体会所



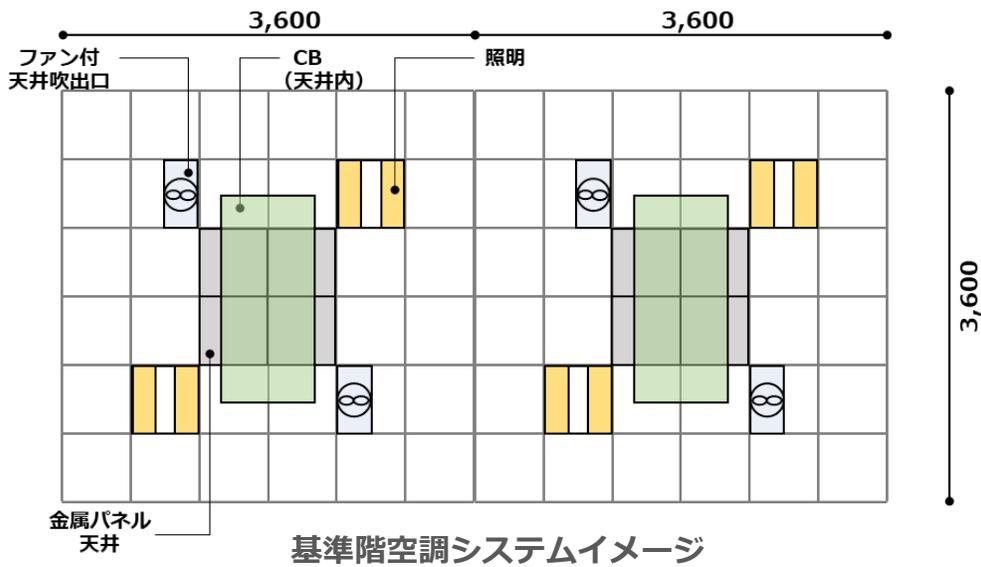
コワーキングスペース

15

多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出



多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出



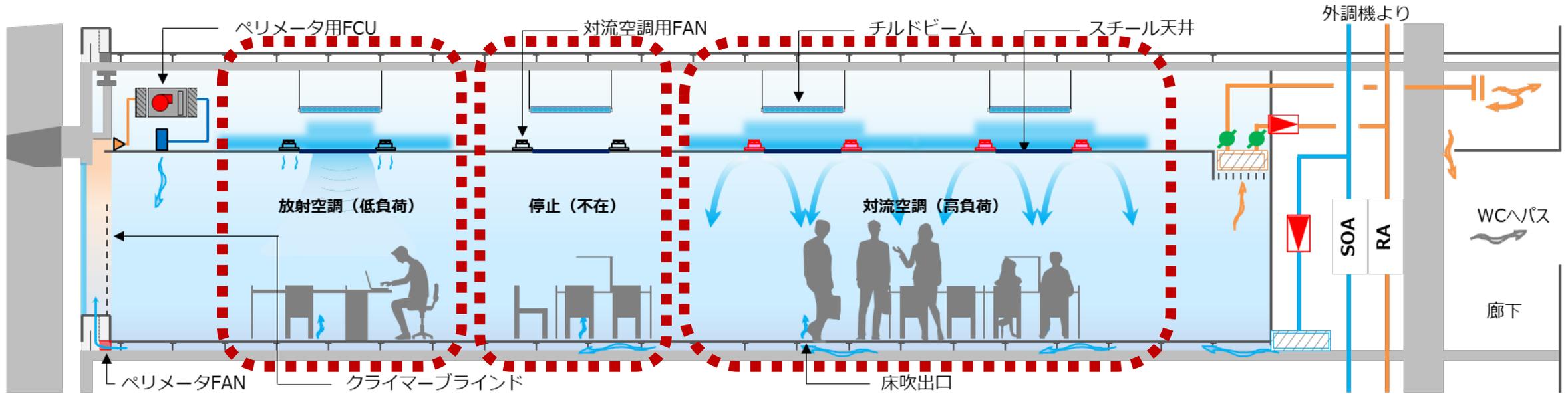
パッシブチルドビーム



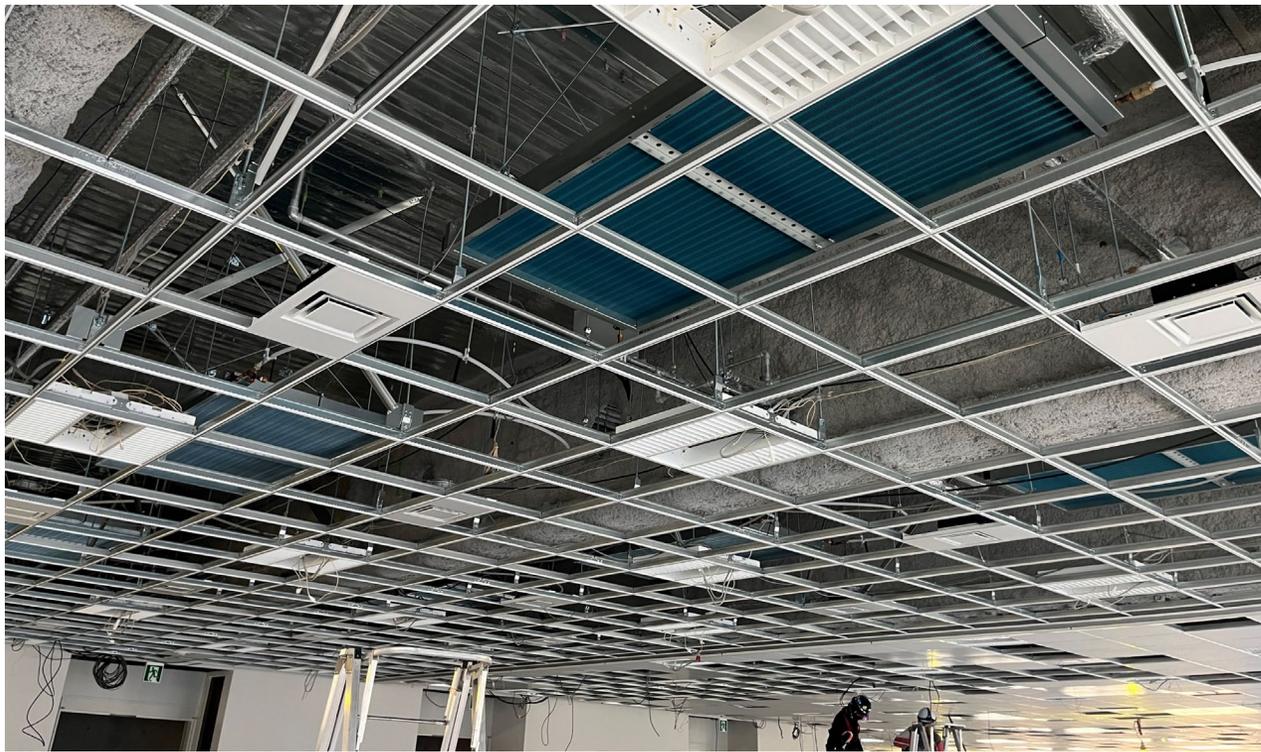
金属パネル



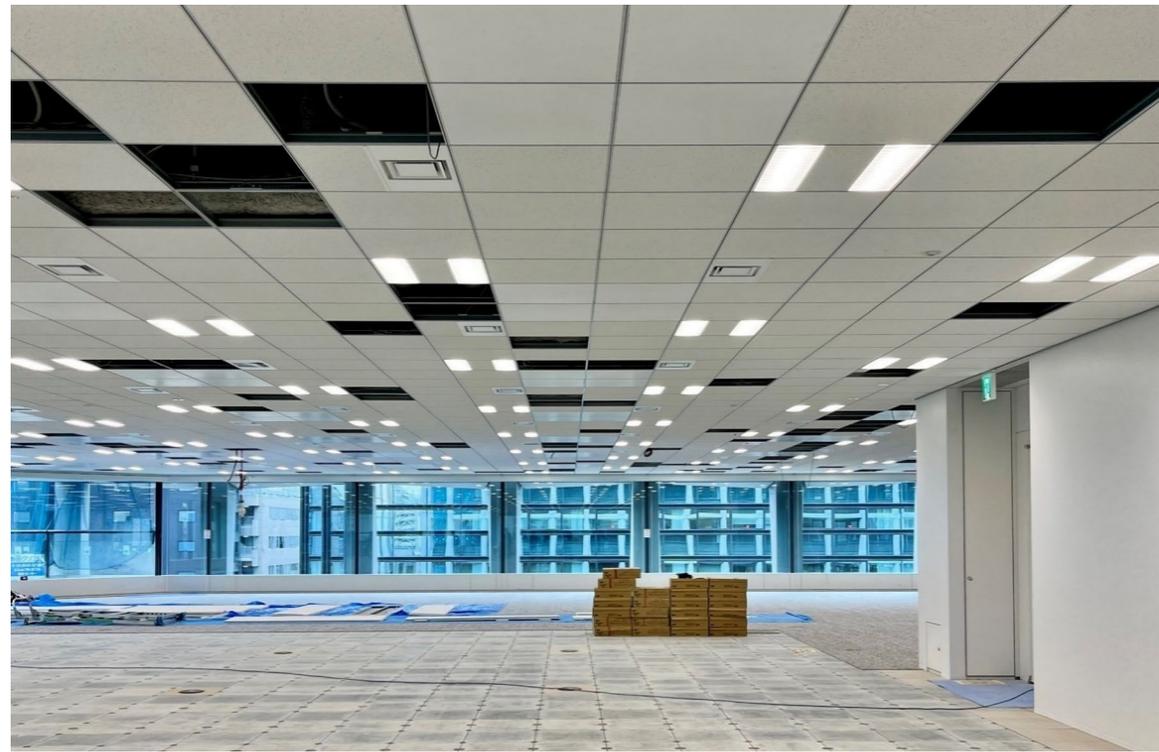
ファン付天井吹出口



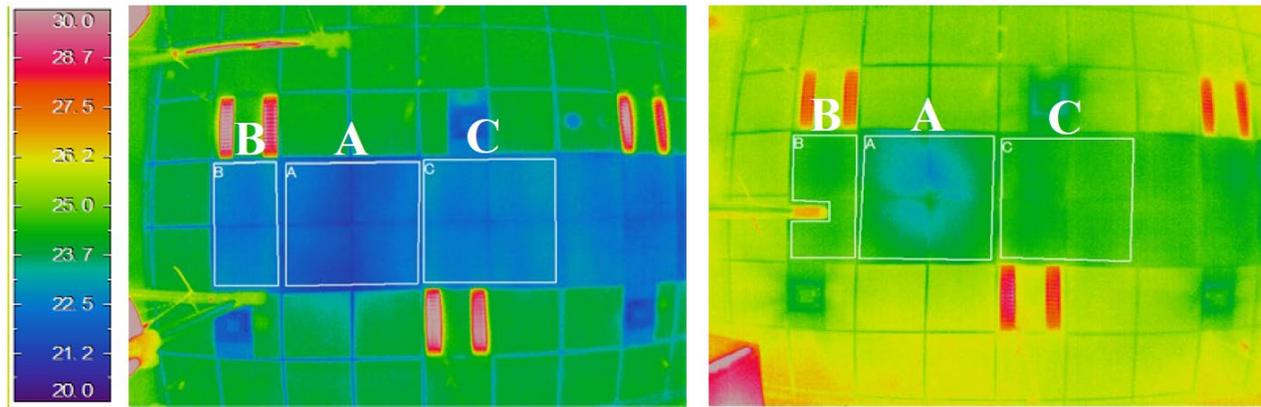
基準階空調システムイメージ



施工中の写真



施工中の写真



表面温度プロット測定結果



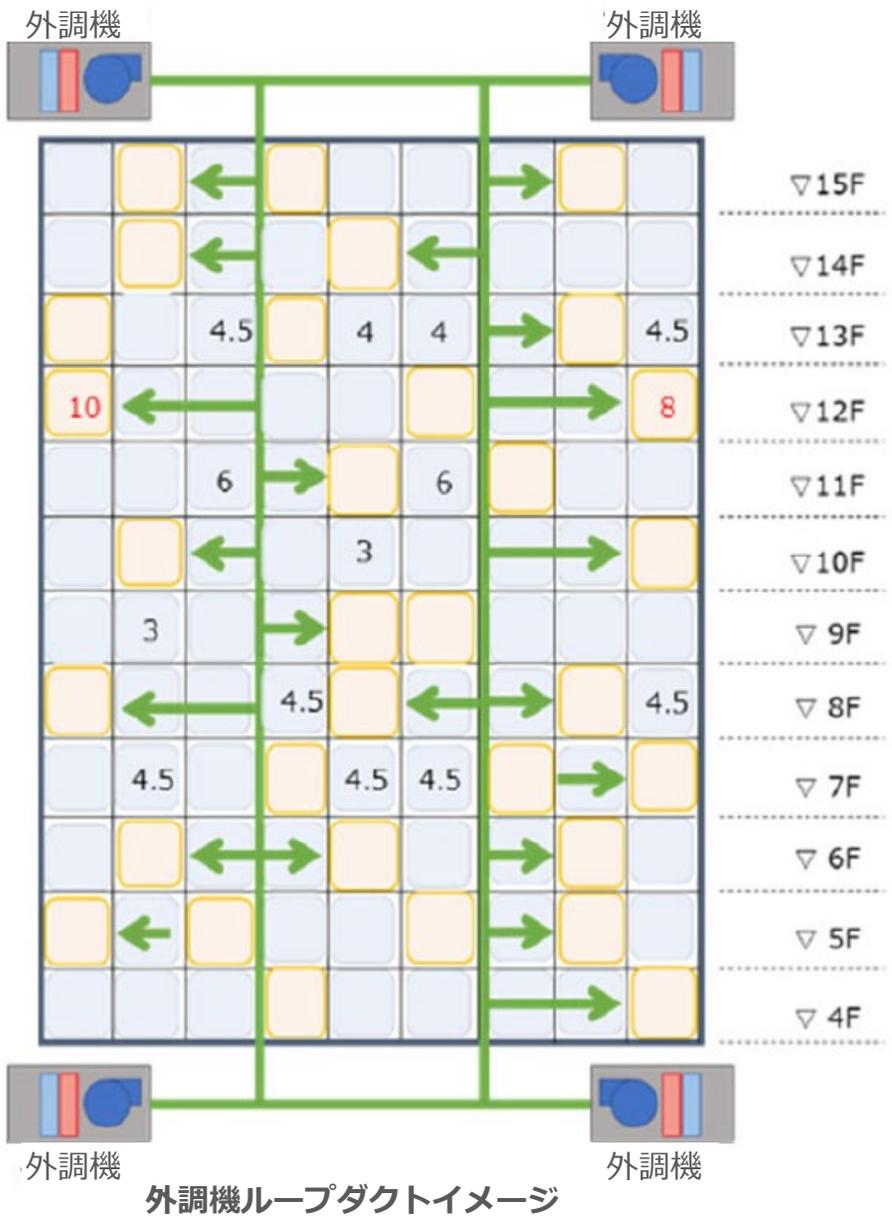
実験風景



気流実験

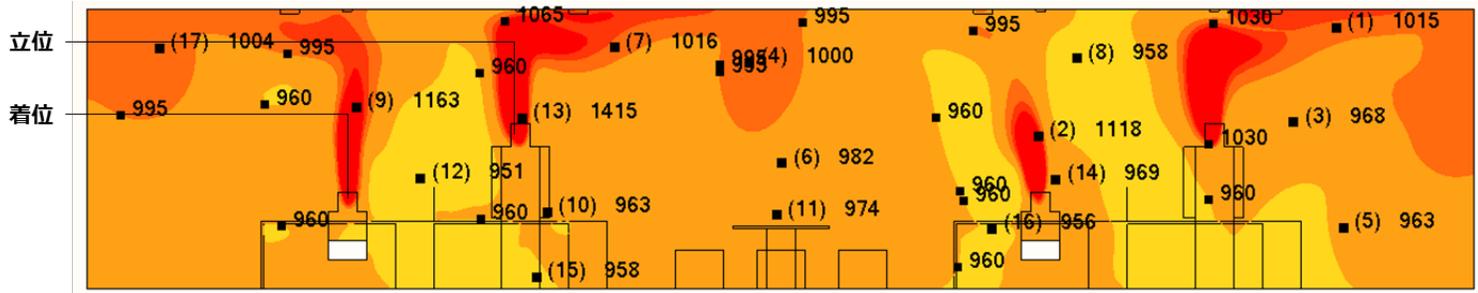
多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出

□ : 高負荷 □ : 低~中負荷



CASE_01

OA天井吹出し + SA/RA天井 + EA天井

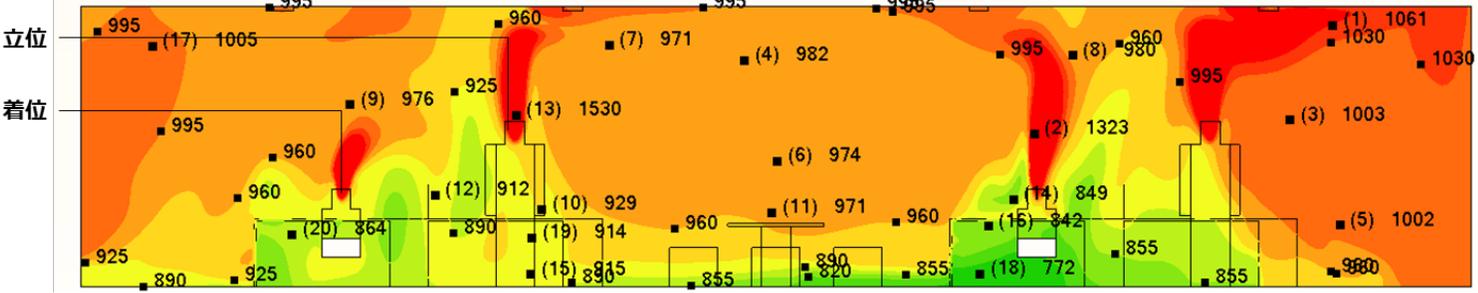


・天井付近でOAとSAが混合し、室全体でCO₂濃度はほぼ均一

採用方式

CASE_02

OA床吹出し + SA/RA天井 + EA天井



・居住域に新鮮OAが供給されていることを確認
 ・天井からのSA/RAによるOAの攪拌はみられない

CO₂濃度シミュレーション

多様化する働き方の受け皿となるオフィス空間の創出

01 建物コンセプト・概要

02 名古屋支店エリア概要

- ① 支店の皆で考え、皆で創り上げる
- ② 建物本体の特徴を最大限活かしたワークプレイス

03 運用開始後の評価



1

支店の皆で考え、皆で創り上げていく！

社内外の繋がりを更に強化する新支店を目指す

- ・ビックプレートによる平面的な繋がり
- ・吹抜を介した立体的な繋がり
- ・ワークスペースを繋ぐウェルネスラウンジ
- ・セルフカフェコミュニケーション

1
部署内・部署間の
つながり

2
外勤者との
つながり

- ・外勤者を迎え入れるコワーキングラウンジ
- ・東海四県10営業所との常時接続ディスプレイ
- ・現場リアルタイムモニター

3
イノベーション
生産性向上

- ・ABWオフィス
- ・ON/OFFを促す多様なインテリア
- ・明るさと色温度を変えられるDX-Core
- ・開放感のある吹抜・直天井
- ・VRによる早いもの決め

人と人がつながる

「コミュニケーションHUB」

- ・ものづくりが見えるインテリア
- ・東海四県素材で地域の技術を発信
- ・エントランス兼展示ギャラリー
- ・吹抜ラウンジの社外解放
- ・社外の方を招いた講演会や地域イベントの実施
- ・VRでの設計空間疑似体験、現場体験

4
社外への
発信

5
支店の声を反映した
ABW

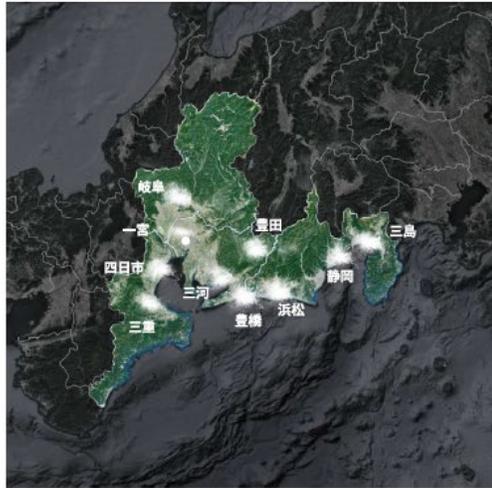
- ・全従業員へのアンケートから生まれたレイアウト
- ・支店内アイデアコンペ
- ・部署特性を反映したワークプレイス計画

6
リラクゼーション
WELL

- ・吹抜ラウンジ
- ・セルフカフェ
- ・自然を享受するウェルネスラウンジ
- ・緑視率向上
- ・個別空調制御、照明制御
- ・WELL GOLD

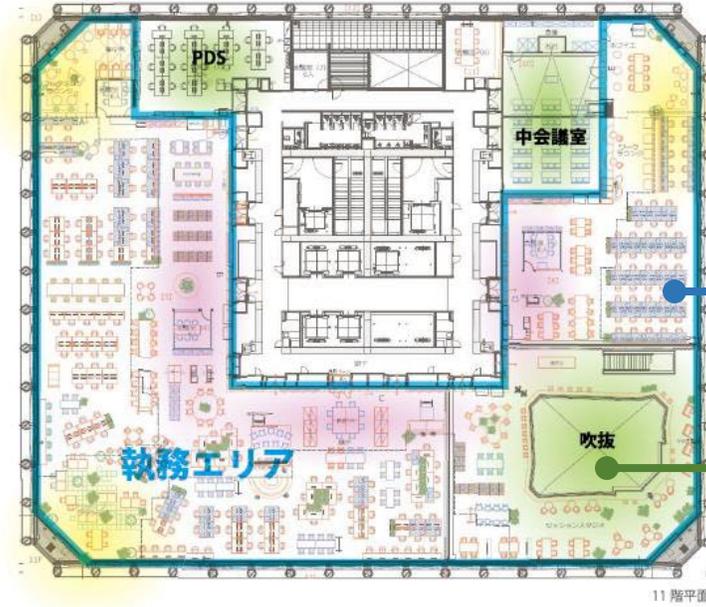
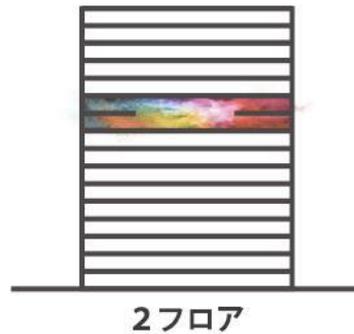
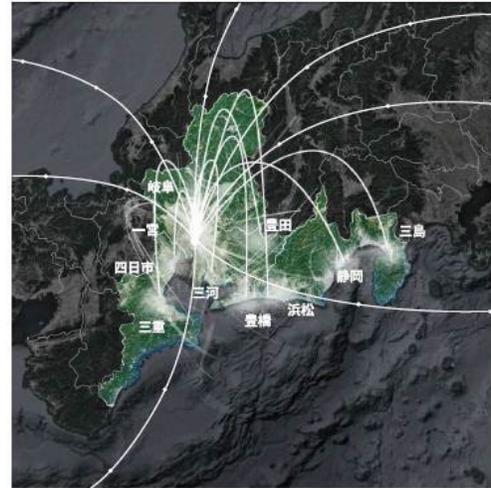
新支店の構成

- 2023 "分散"



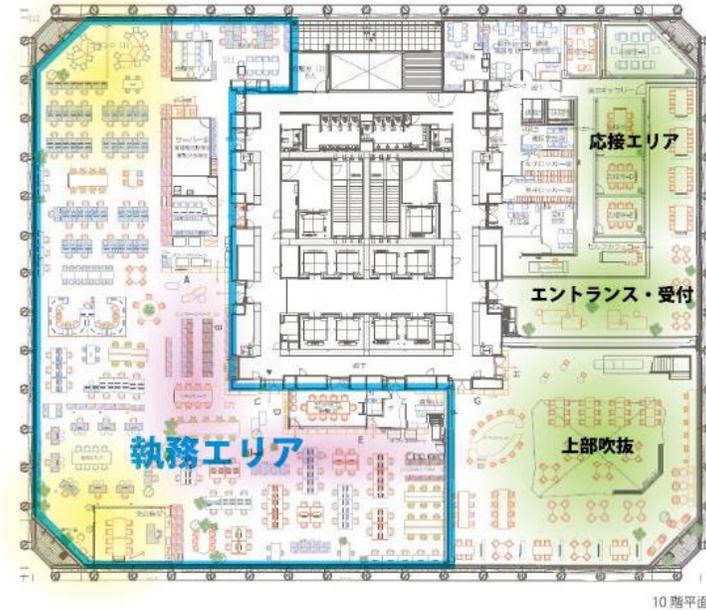
人と人がつながる
「コミュニケーション HUB」

2024 - "交流"



大きな平面
横のつながり

吹抜
縦のつながり



10階平面図

エントランス：シミズブランドを発信する

ものづくりの見える
直天井

東海四県素材を使用
地産地消
地域の技術を発信

W14.4m壁面プロジェクション
シミズの歴史・最新技術の発信 25

東海エリア最大級のビックプレートを活かし 2フロアに集約

他部署の方や外勤者との交流を誘発する コワーキングラウンジ



他部署の活動に自然に触れる、みんなの寄合所

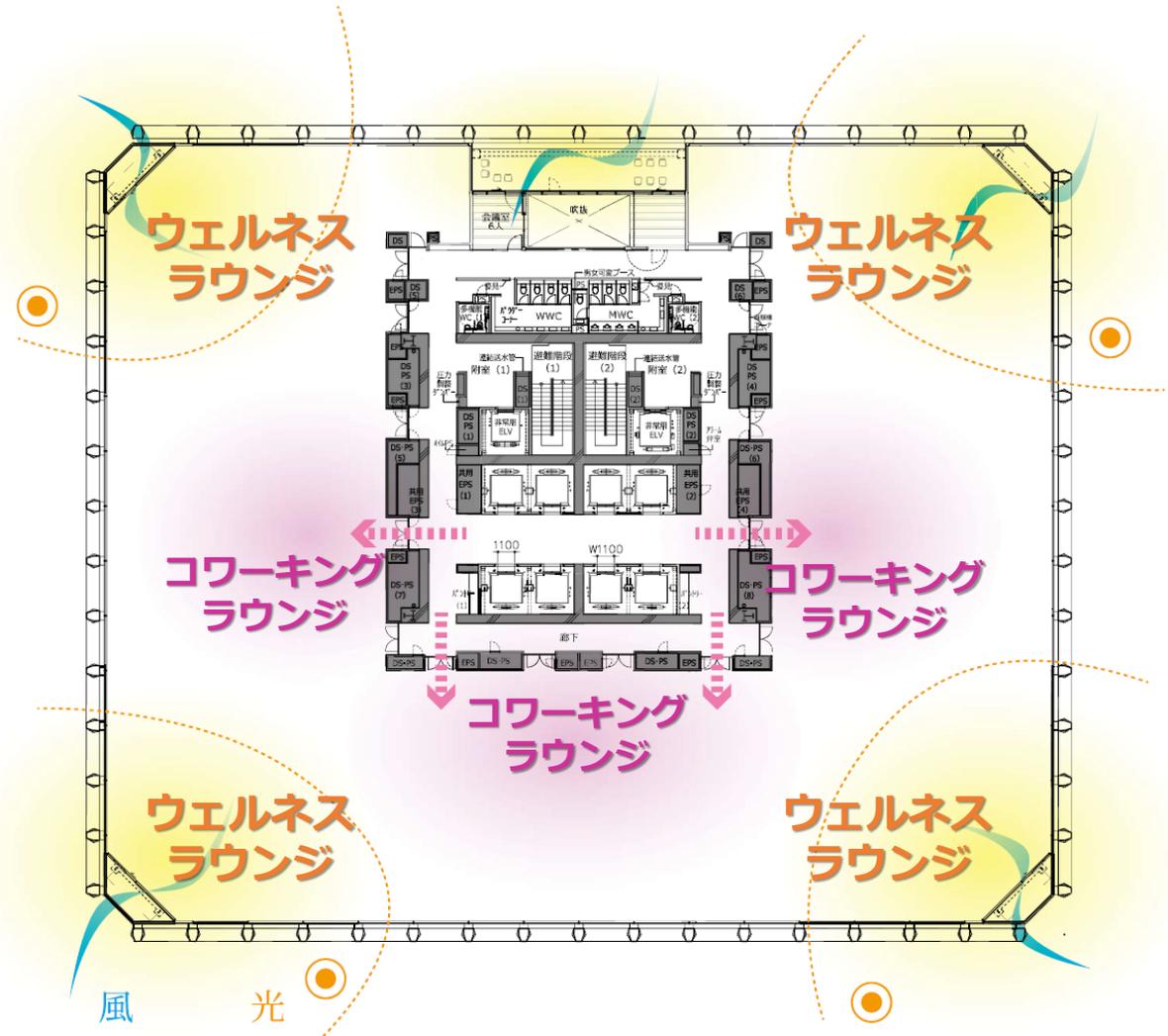


組織を超えた繋がりができ始めている



②

建物本体の特徴を最大限活かしたワークプレイスとする

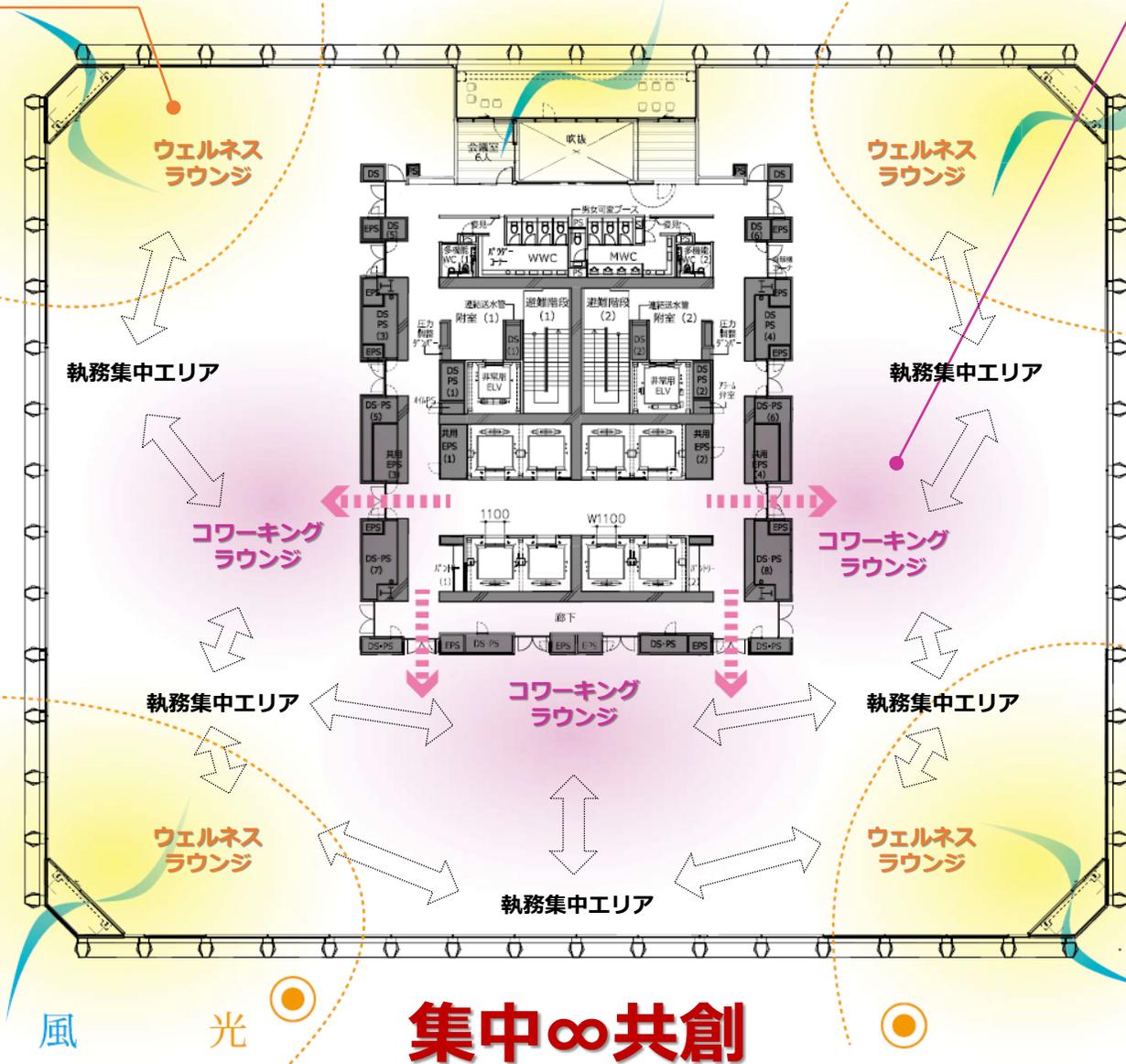


四隅の屋外バルコニーを活かし、自然を享受するウェルネスラウンジを計画

- 四隅 - ウェルネスラウンジ



- 入口部 - コワーキングラウンジ



アイデアコンペの案を形にする



外殻構造+クライマーブラインドを 活かした什器・働き方



01 建物コンセプト・概要

02 名古屋支店エリア概要

- ① 支店の皆で考え、皆で創り上げる
- ② 建物本体の特徴を最大限活かしたワークプレイス

03 運用開始後の評価

環境評価

（第8報） 移転後執務室の執務環境と空調運転モードに応じた温熱環境の評価

執務者への影響

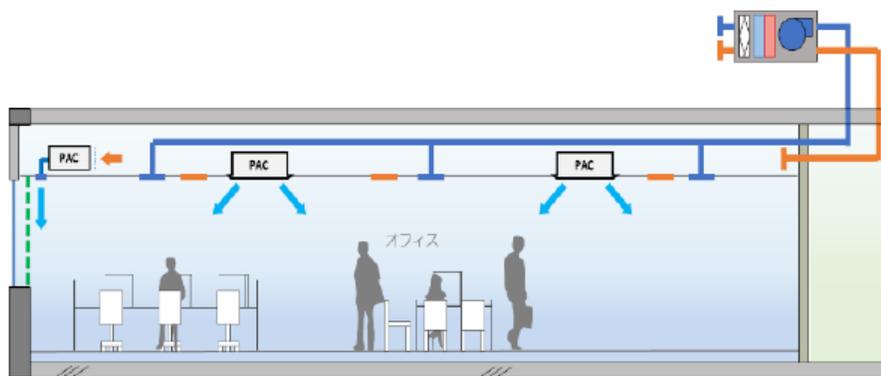
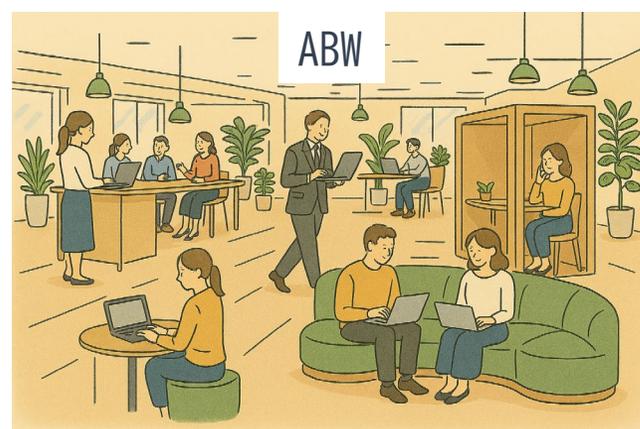
（第9報） オフィス移転による働き方の変化が執務者の満足度に与える影響

（第10報） 移転前後のコミュニケーション量の変化に関する実測調査

（第11報） 運用説明を伴うABWオフィス移行が執務者の適応感に与える影響

背景と目的（R7年度SHASE大会にて報告）

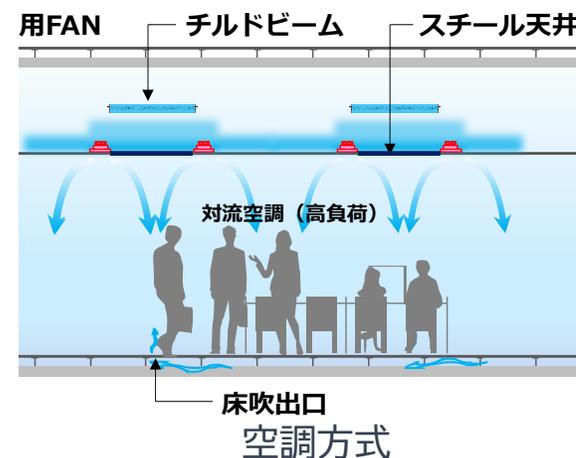
新しい働き方における知的生産性につながる環境要素を分析



空調方式

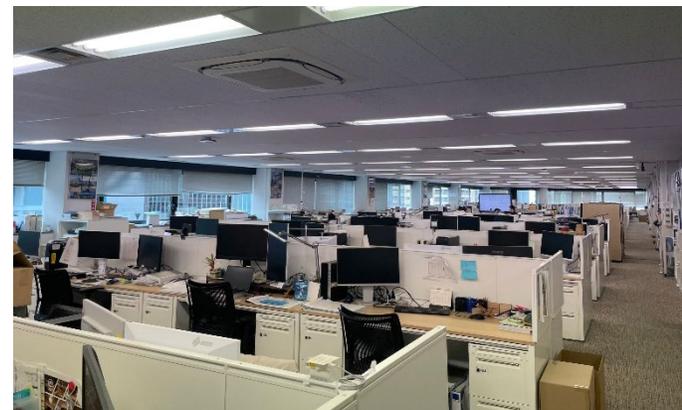
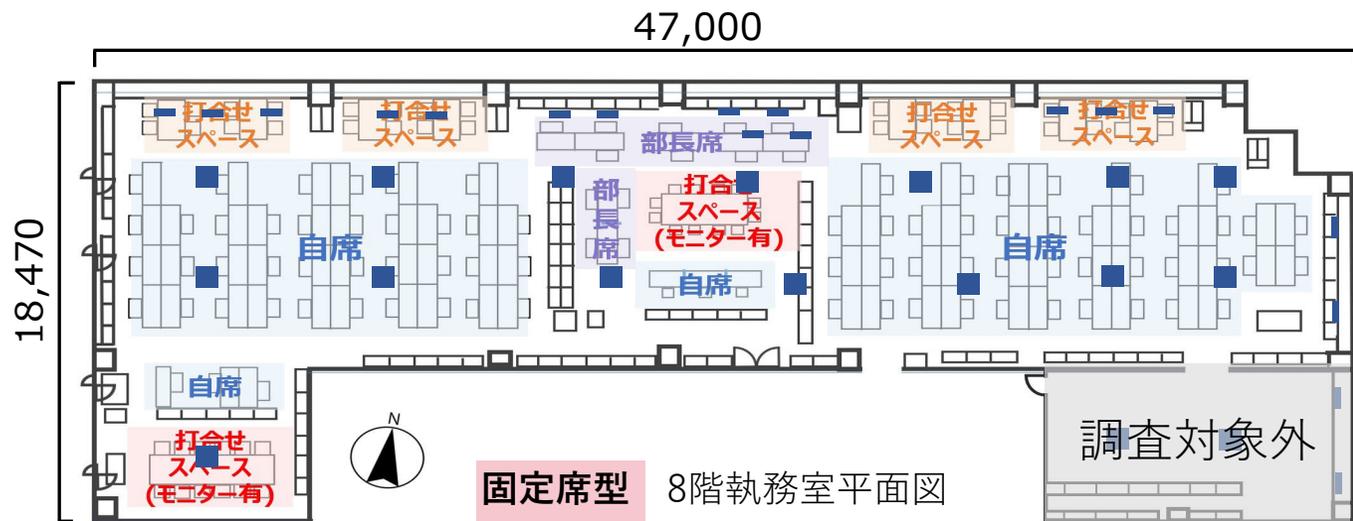
移転前

移転後

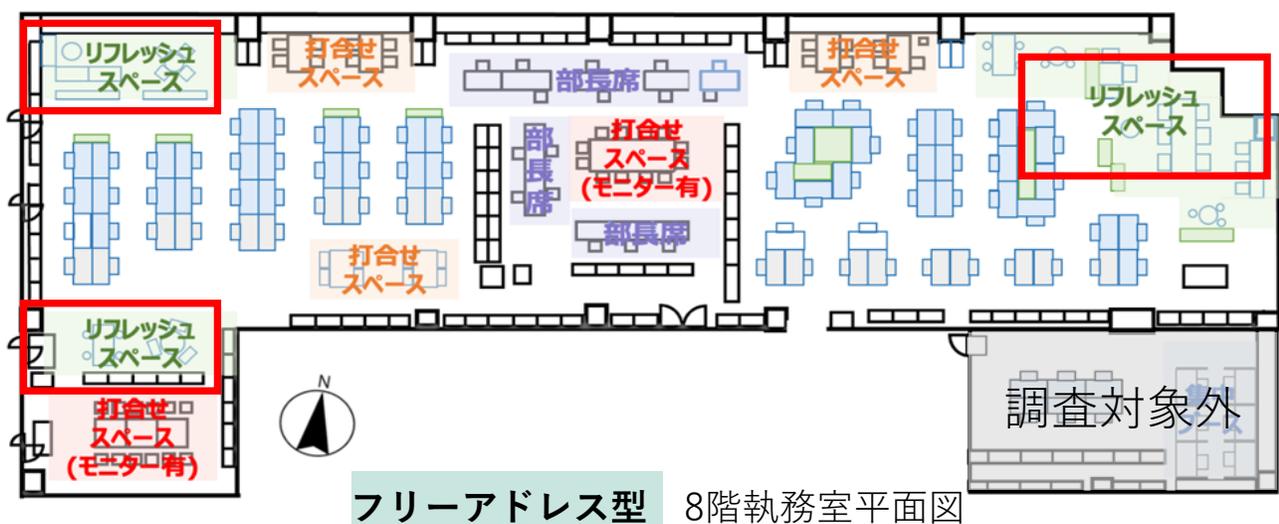


開発した空調システムが形成する温熱環境やABWレイアウト、働き方を採用した執務環境を対象に**執務者の環境満足度と知的生産性に与える影響**をアンケートを用いて評価し、今後の運用改善に向けた課題抽出を目的とする

移転“前”レイアウト概要（R7年度SHASE大会にて報告）

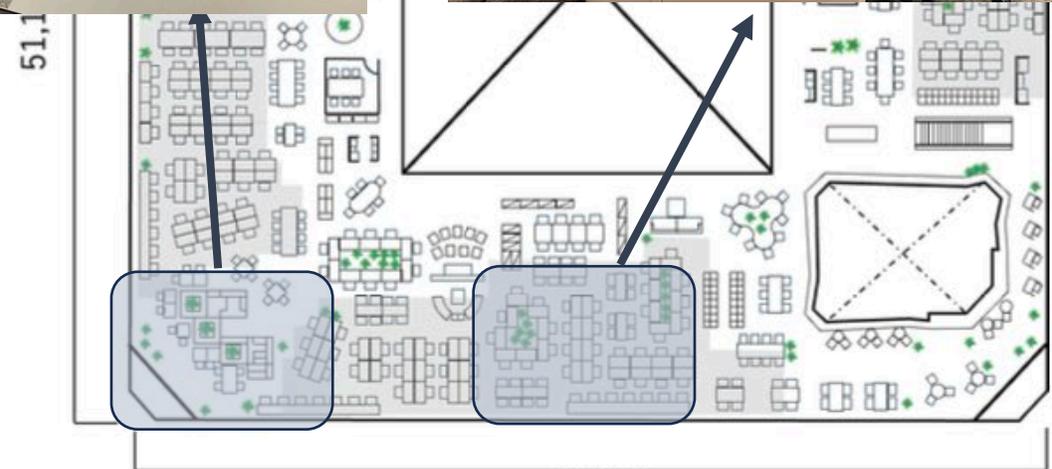
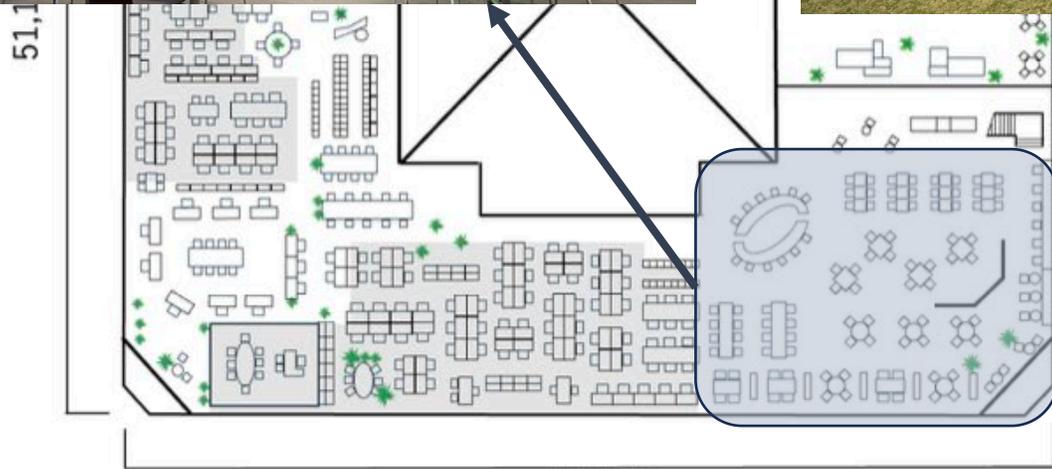


固定席型 8階執務室内観写真



フリーアドレス型 8階執務室平面図内観写真

移転“後”レイアウト概要 (R7年度SHASE大会にて報告)



61,900

61,900

■: 執務スペース □: フリースペース ■: 観葉植物

調査概要（R7年度SHASE大会にて報告）

アンケート評価概要

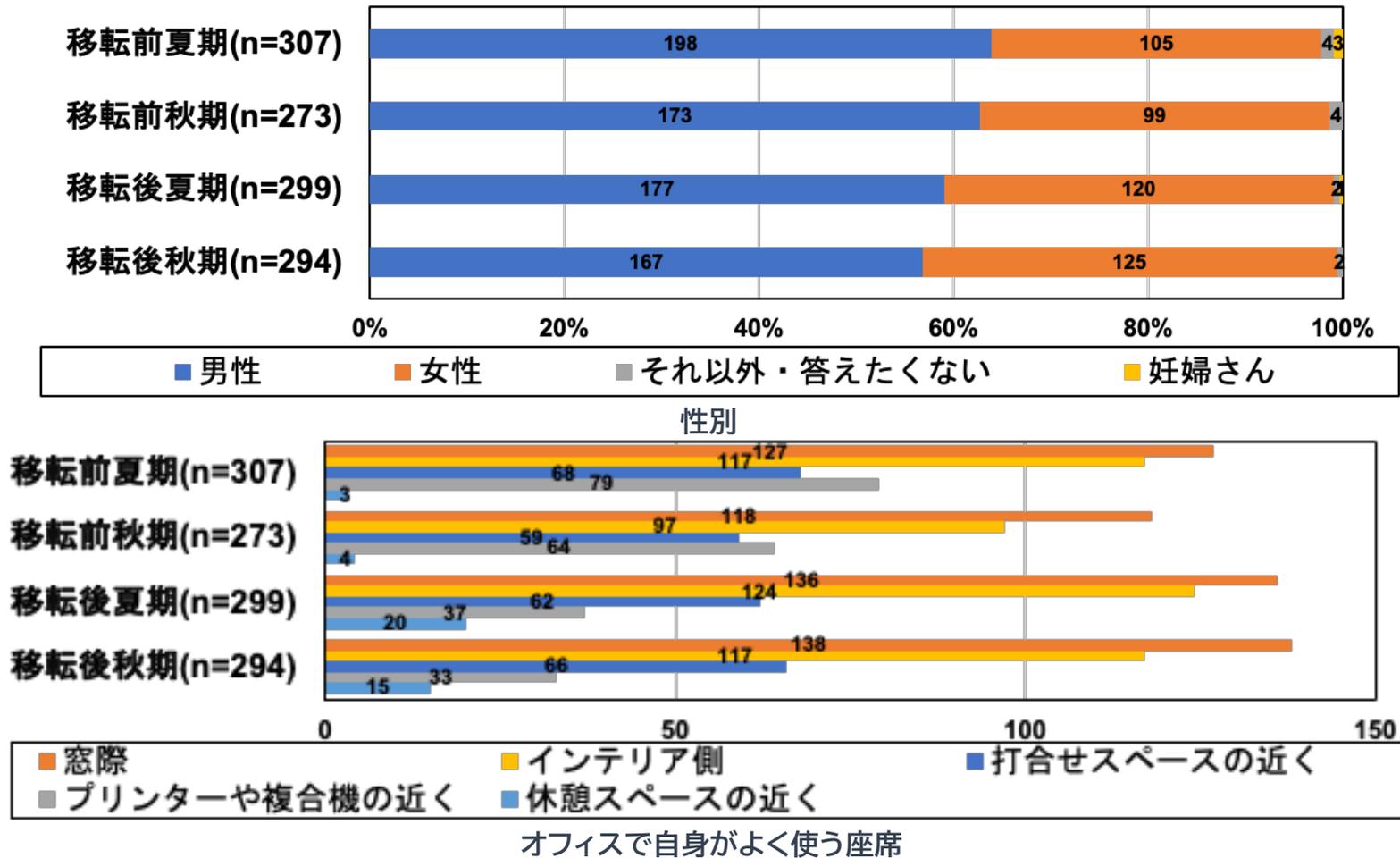
対象建物	移転前オフィス		移転後オフィス		
	名称	23年夏期	23年秋期	24年夏期	24年秋期
調査期間		2023 / 7 / 18 (火) ~2023 / 7 / 28 (金)	2023 / 10 / 30 (月) ~2023 / 11 / 10 (金)	2024 / 9 / 4 (水) ~2024 / 9 / 13 (金)	2024 / 10 / 28 (月) ~2024 / 11 / 8 (金)
運用方式		固定席	5階（一部）, 8階：フリーアドレス 5階（一部）, 6, 7, 9階：固定席	グループアドレス※	
オフィスレイアウト		執務席・打合せスペース	全フロア：執務席・打合せスペース 8階：リフレッシュスペース・ 集中ブース(セミクローズ型)	執務席・打合せスペース・リフレッシュスペース 集中ブース(防音個室型・セミクローズ型)・吹抜エリア	
回答者 / 対象者		307名 / 398名 (回答率77%)	273名 / 377名 (回答率72%)	299名 / 399名 (回答率75%)	294名 / 381名 (回答率78%)

アンケート項目

個人属性	性別、年齢、所属部署、在席率、体調、睡眠時間、通勤時間 等
環境満足度	光、音、温熱、IT、空間、空気、総合環境満足度、知的生産性等
コミュニケーション	重要度、頻度、しやすさ、満足度
知的生産性	「設計」や「アイデア」など知的な思考や議論を要する成果を生み出す効率を指す

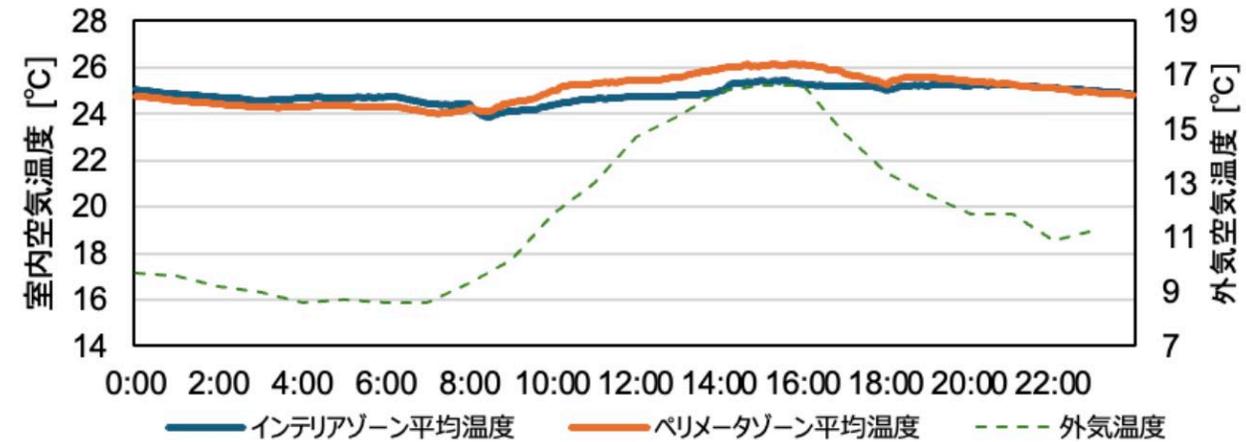
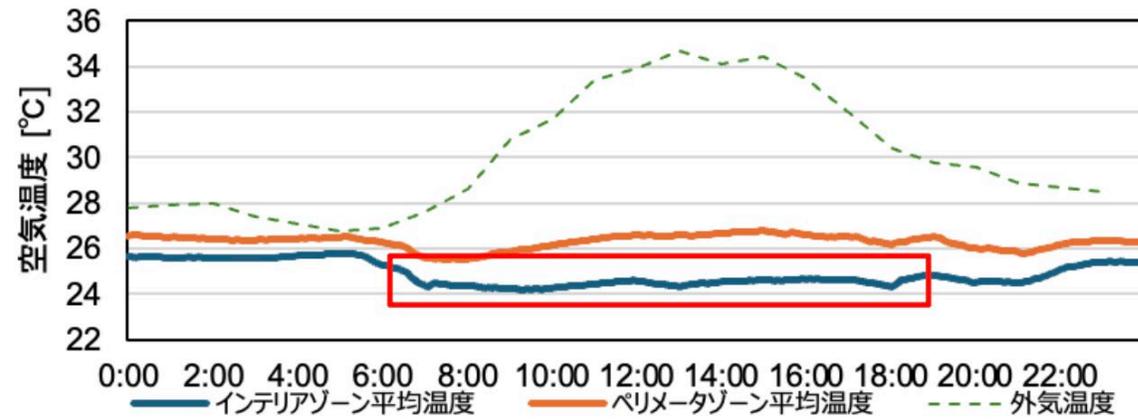
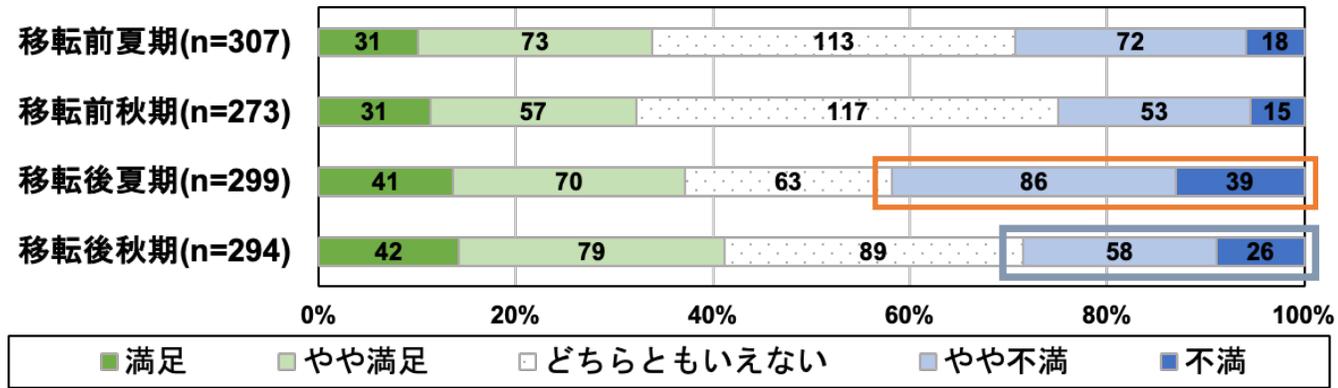
※部署やグループごとに大まかに働くエリアを決定した上で自分の執務席を選択できるシステム

回答者属性



- 性別や年齢において全アンケートにおいて概ね同様の傾向が見られた
- 移転後は静かな休憩スペース近くで座る人が増え、プリンターなど雑音がある席を選ぶ人が減少した

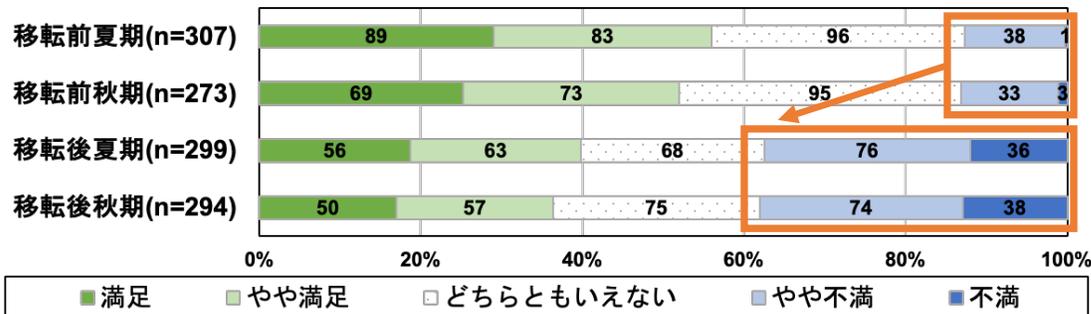
温熱環境



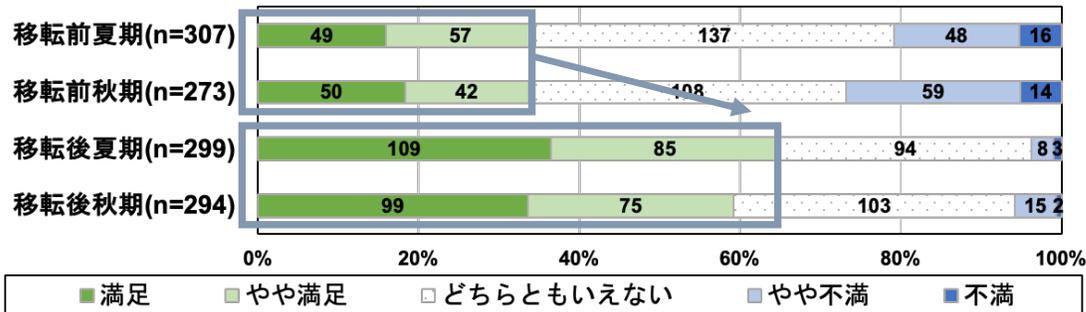
- 移転後秋期には、移転前に比べ10%程度満足側の回答が増加
- 移転後夏期は空調のチューニング前で局所的に低温となったが、秋期には改善され不満が減少

調査結果（R7年度SHASE大会にて報告）

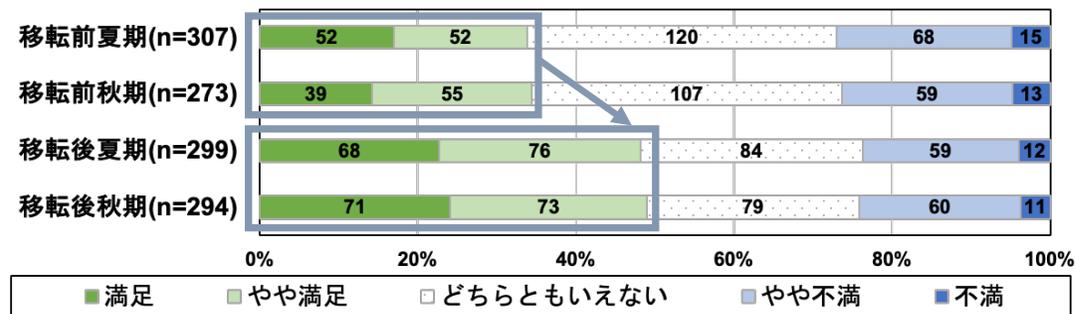
光・音・空気・空間環境



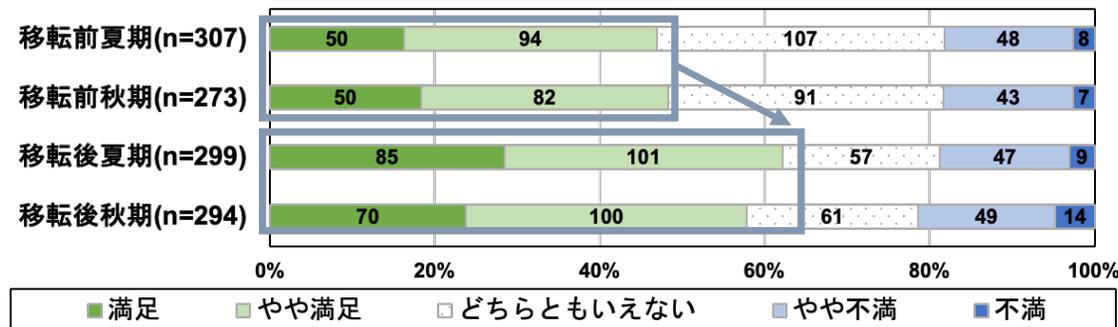
光環境満足度



空気環境満足度



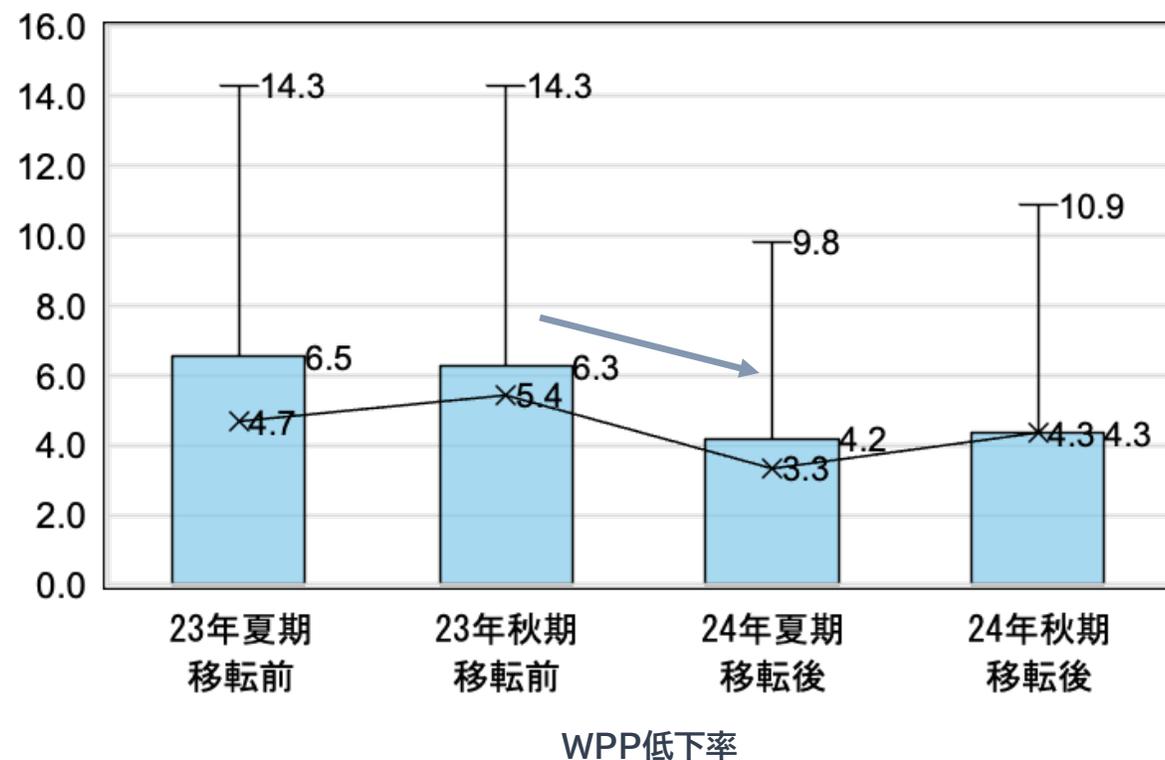
音環境満足度



空間環境満足度

- 音環境：移転後では集中ブースなど静かな空間を選択できることにより移転前より満足側の回答が増加
- 空気環境：放射空調により移転後の空気のよどみ、ほこりっぽさを不満にあげる執務者が減少し、満足側の回答が増加
- 空間環境：移転後に統合的に執務環境が改善され満足側の回答が増加
- 光環境：移転後には不満側の回答が約40%に増加

作業効率

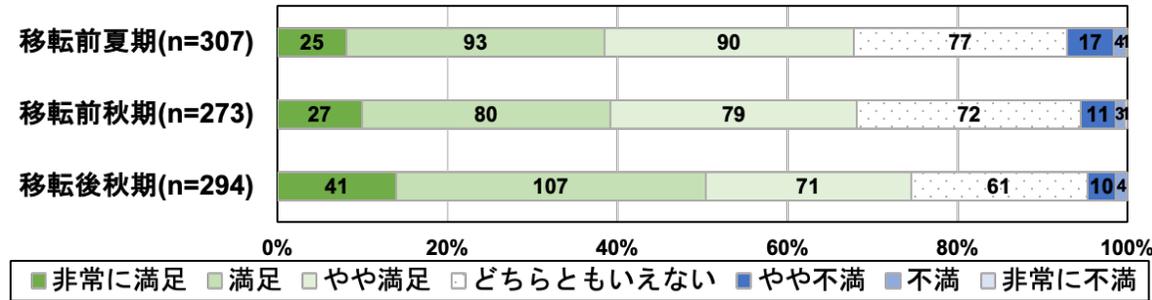


$$\text{WPP低下率} [\%] = \frac{\text{環境による平均損失作業時間} [h]}{\text{労働時間} [h]} \times 100$$

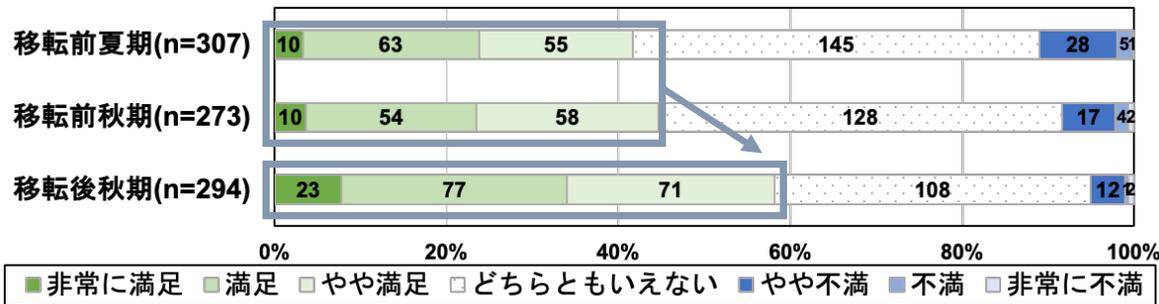
WPP計算式

- 23年と24年を比較すると24年の移転後の方が**WPP低下率は減少**しており、環境を原因とした生産性の低下要因が減少していることが示唆、24年の方はばらつきが小さく**各々良好な環境で仕事ができていると推察**された

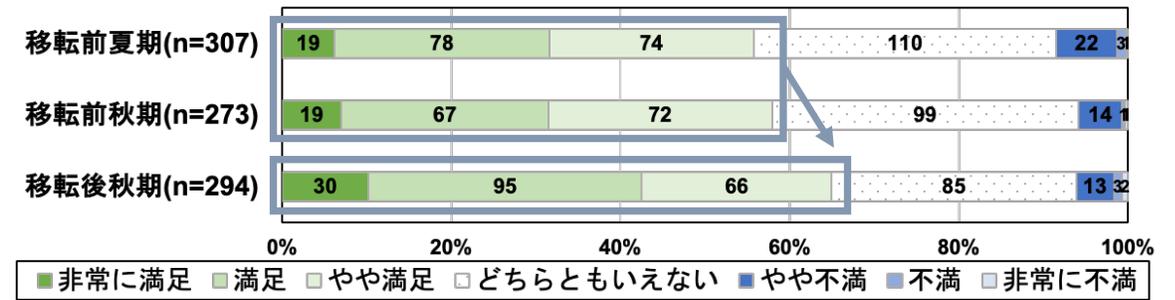
コミュニケーション満足度



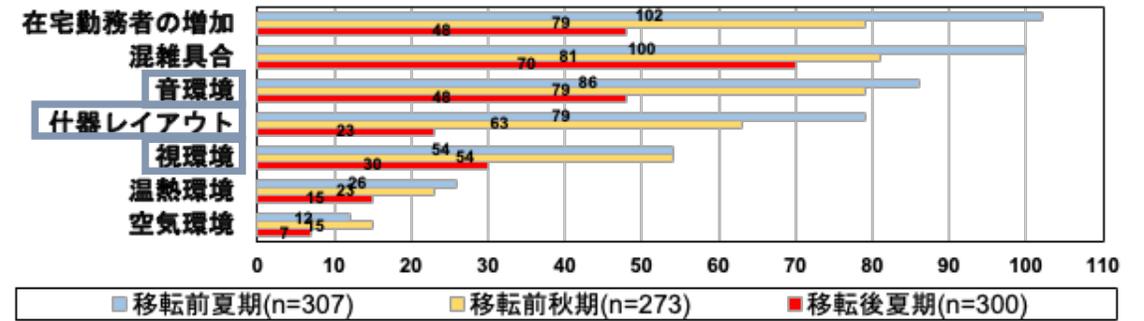
コミュニケーション満足度(同部署・同グループ)



コミュニケーション満足度(他部署)



コミュニケーション満足度(同部署・他グループ)



コミュニケーションの妨げの原因になると感じていること

- 同部署の同・他グループは満足側の回答が移転後に約10%増加した
- 他部署のコミュニケーションは、移転前後でフロア数が減少し、他部署の執務者の顔が見えやすくなったことで向上幅が大きくなったと推察される
- 移転前では什器レイアウト、音環境、視環境をコミュニケーションの阻害要因に挙げる執務者が多かったが、移転後では半減していたことから、多様な什器や空間用途を採用したレイアウトが満足度の向上に貢献していると考えられた

相関分析

知的生産性と各環境満足度の相関係数

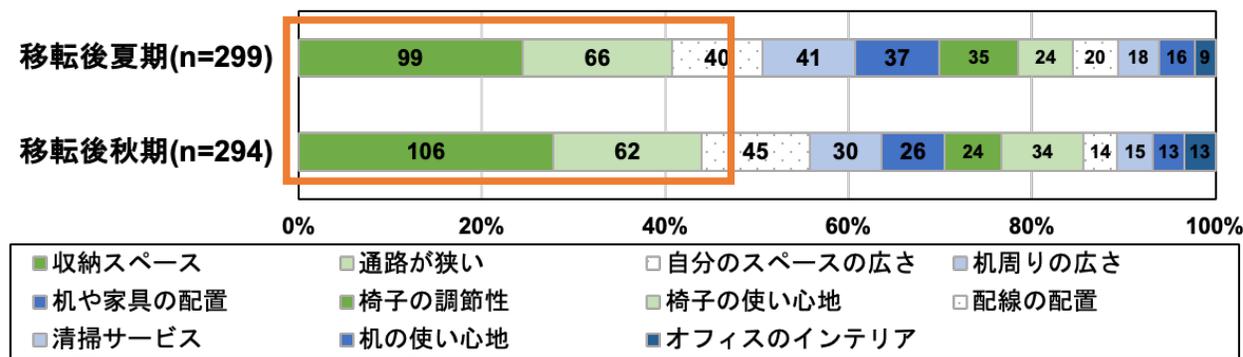
	光環境	空気環境	音環境	空間環境	IT環境	温熱環境
知的生産性 (夏)	.338**	.437**	.488**	.601**	.414**	.263**
知的生産性 (秋)	.375**	.507**	.471**	.493**	.489**	.459**

コミュニケーション満足度と各環境満足度の相関係数

	光環境	空気環境	音環境	空間環境	IT環境	温熱環境
コミュニケーション (夏)	.286**	.308**	.308**	.525**	.236**	.248**
コミュニケーション (秋)	.373**	.467**	.454**	.564**	.430**	.473**

オフィス勤務時コミュニケーション満足度と作業性の相関係数

	作業への集中	リラックス	創造的な活動	知的生産性
同部署 ・同グループ	.511**	.491**	.494**	.494**
同部署 ・他グループ	.514**	.526**	.546**	.551**
他部署	.443**	.453**	.536**	.491**
他社の方々	.404**	.419**	.412**	.447**



- 知的生産性：空間環境を改善することにより**知的生産性と作業効率の向上に寄与**
- コミュニケーション満足度：同部署・他グループと作業性の相関係数が高く、**グループアドレスは有効**
- 不満要素：収納スペース、レイアウト改善による通路の幅員、自分のスペースの確保が必要

環境満足度

- ✓ 移転後夏期は室内温度が低下したが、チューニング後の秋期では移転前より満足側の回答が増加した
- ✓ 音・空気・空間環境では移転前より満足側の回答が増加した
- ➡ 移転前と比べると良好な環境が形成されていることが示唆された

コミュニケーション満足度

- ✓ 同部署、他部署いずれも移転後に満足側の回答が増加した
- ➡ ABWオフィスがコミュニケーション満足度の向上に有効であることが示唆された

相関分析

- ✓ 他の要素と比べ空間環境満足度は知的生産性および作業性と強い相関があった
- ✓ 同部署・他グループと作業性の相関係数が高い
- ➡ グループアドレスは作業性向上に有効であり、空間環境を整えることで知的生産性が向上する他に、コミュニケーション満足度が向上し作業性も効率的に改善されると推察される

今年度も引き続き、環境測定、アンケート調査を継続

調査概要 - 定点カメラによるコミュニケーション量測定 - (R7年度SHASE大会にて報告)

調査対象	
調査期間	2023/
運用方式	
使用機器	
測定間隔	
対象者数	
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調査対象 ・コミュニケーション ・継続時間



(a) 定点カメラ



(b) 撮影画像イメージ

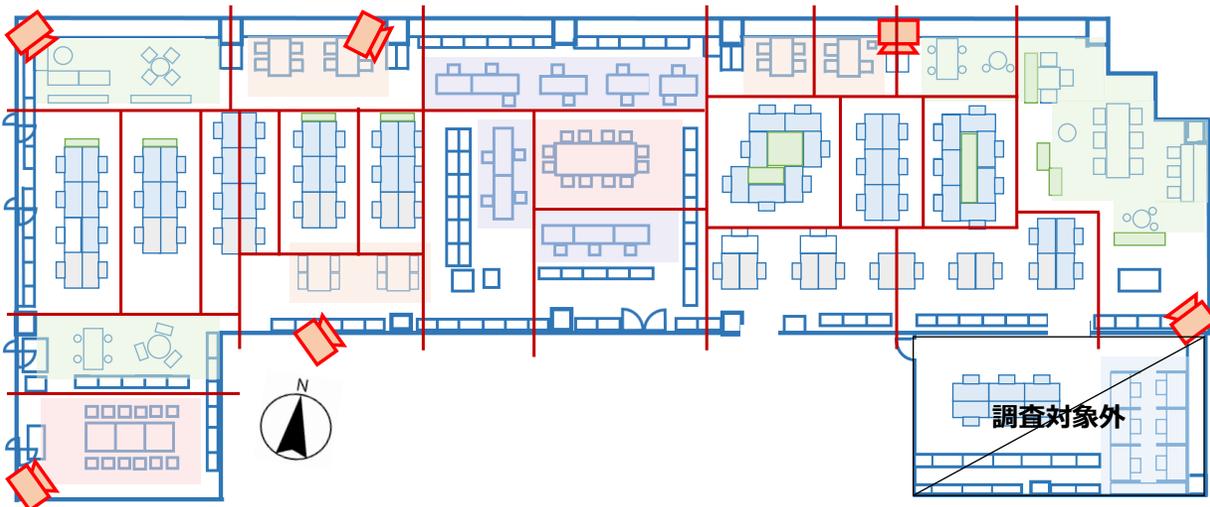
図-3 定点カメラ測定状況

	移転後オフィス
金)	2024/11/11 (月) ~ 11/15 (金)
	グループアドレス
	TLC 200 Pro (brinno社製) / 7台
	5日間合計218名 (276名)

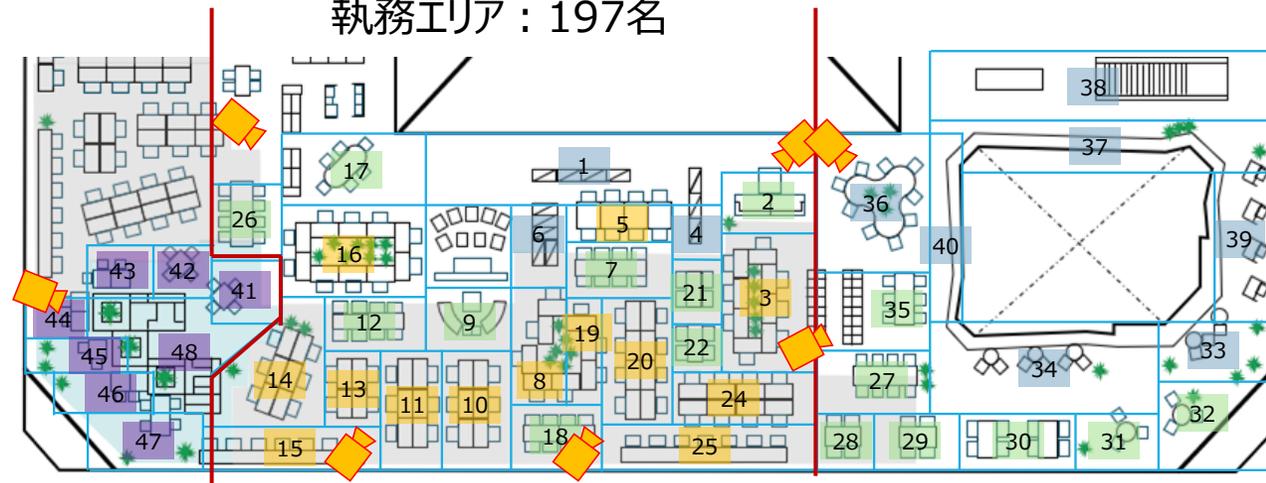
リフレッシュエリア：21名

吹抜エリア：58名

執務エリア：197名



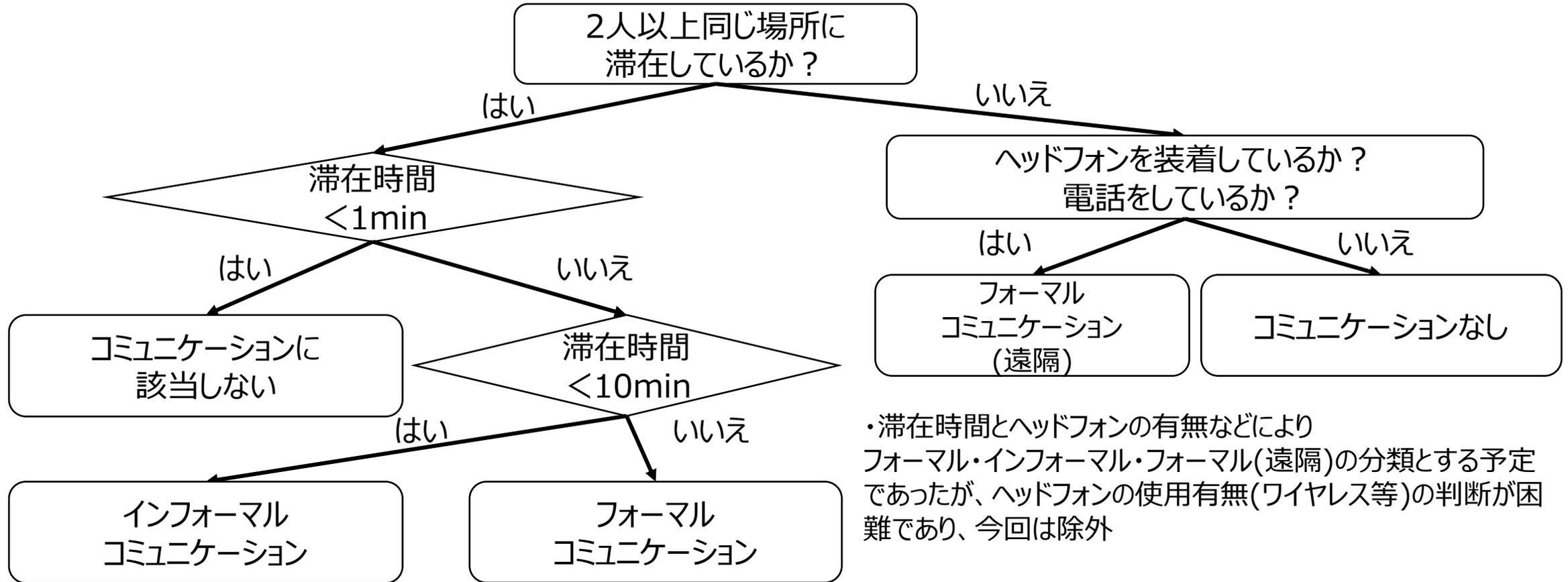
移転前オフィス評価対象エリア



移転後オフィス評価対象エリア

調査概要 - 定点カメラによるコミュニケーション量測定 - (R7年度SHASE大会にて報告)

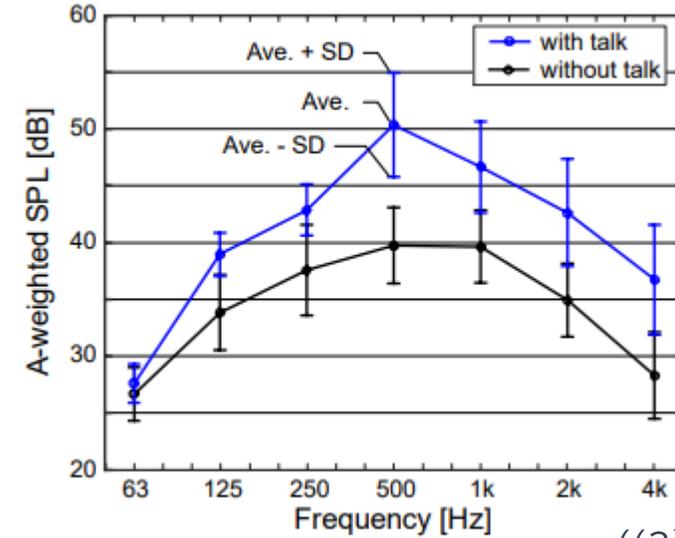
分類	内容
フォーマルコミュニケーション (FC)	あらかじめ目的と場所、出席者を決めて行うもの。 打合せ・会議・WEB会議など
インフォーマルコミュニケーション (IFC)	あらかじめ目的と場所、出席者を決めていない偶発的なもの。 たまたま場所、時間が共有されたことから発生する会話など (業務と業務以外の会話両方を含む)





音圧センサー設置位置

- : 音圧センサー
- ▭ : 評価対象エリア



((3) 石塚ら 他 (2020))

評価方法イメージ

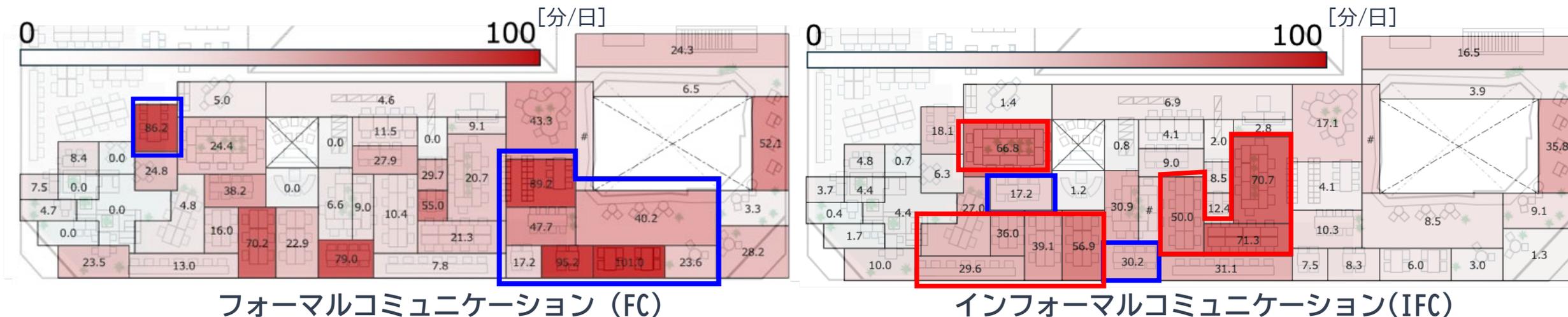
A特性と500Hz帯域の等価音圧レベルの差分が1dB以上となった場合に会話が発生したと判定



音圧センサー測定状況

コミュニケーション累積時間

コミュニケーション累積時間 [分 / 日] = コミュニケーション発生時間 [分] ÷ 調査対象日数 [日]



フォーマルコミュニケーション (FC)

インフォーマルコミュニケーション(IFC)

- FCは他部署と隣接するエリアや吹抜エリアの打合せスペースで長くなった。
→執務席で囲まれたスペースよりも優先して使用されていた。

- IFCは執務席で長くなった。
- IFCに関して打合せスペースでは、執務席で囲まれた場所が優先して使用されていた。

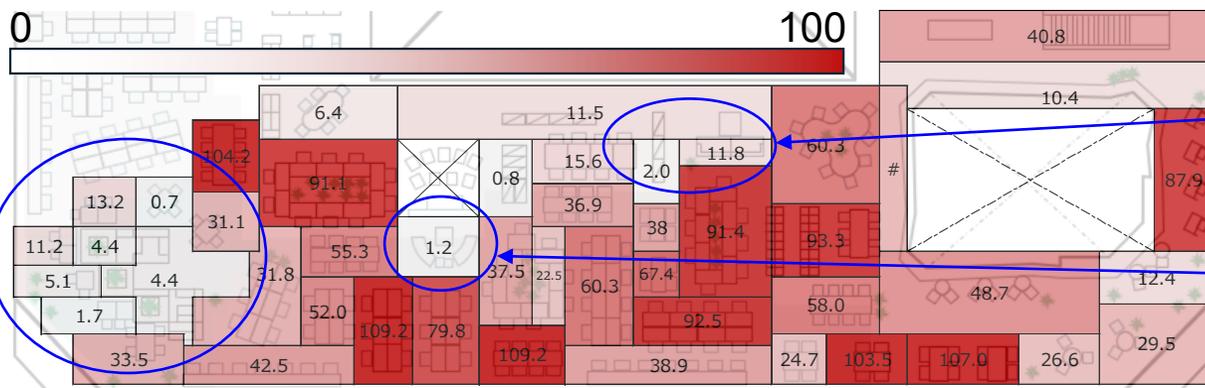
調査結果（R7年度SHASE大会にて報告）

コミュニケーション累積時間

$$\text{コミュニケーション累積時間 [分 / 日]} = \text{コミュニケーション発生時間 [分]} \div \text{調査対象日数 [日]}$$



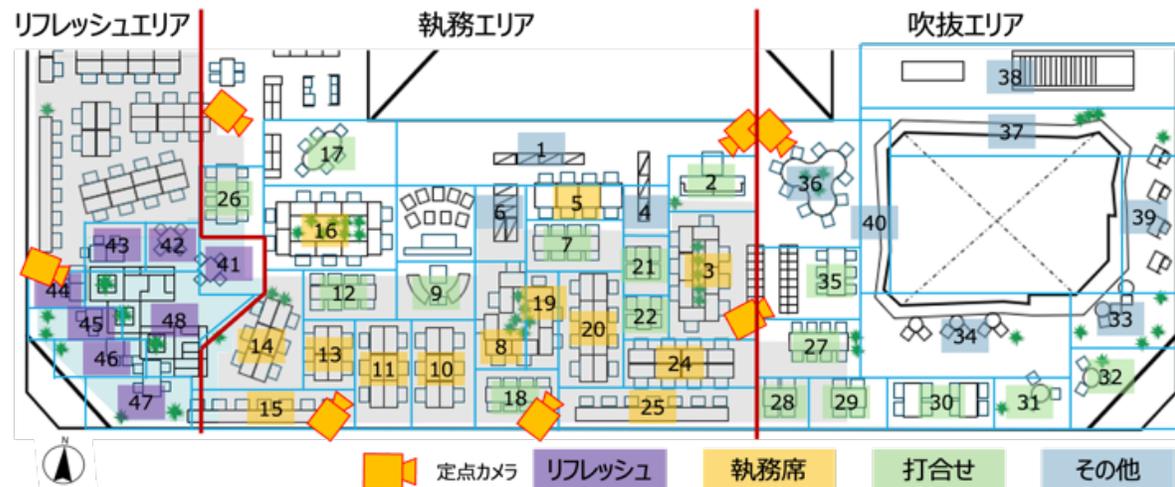
リフレッシュエリア



全コミュニケーション（FC+IFC）



デスクがないエリア



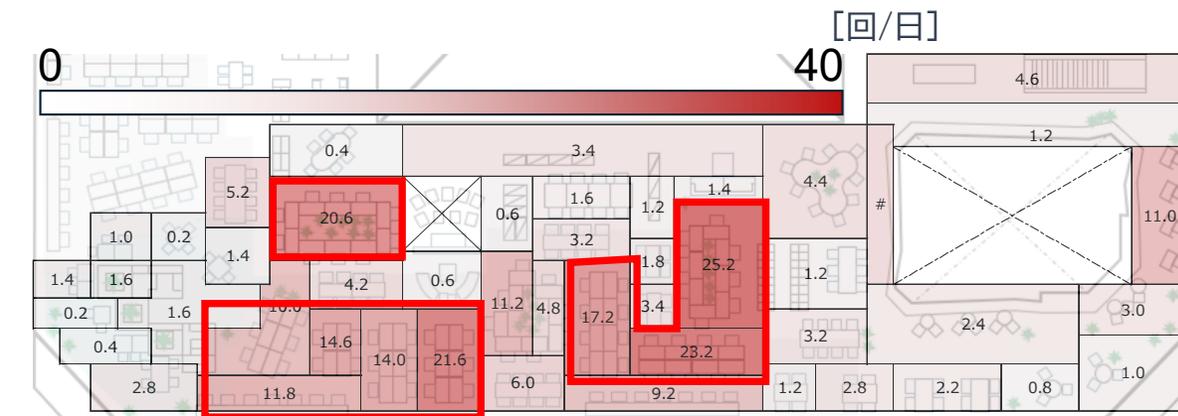
- ・ FCとIFCを合算した累積時間では
リフレッシュエリアと
PCが置きやすいデスクがないエリアでの
コミュニケーション時間が短くなっている傾向。

コミュニケーション発生回数

$$\text{コミュニケーション発生回数[回 / 日]} = \text{コミュニケーション総発生回数 [回]} \div \text{調査対象日数 [日]}$$



フォーマルコミュニケーション (FC)



インフォーマルコミュニケーション(IFC)

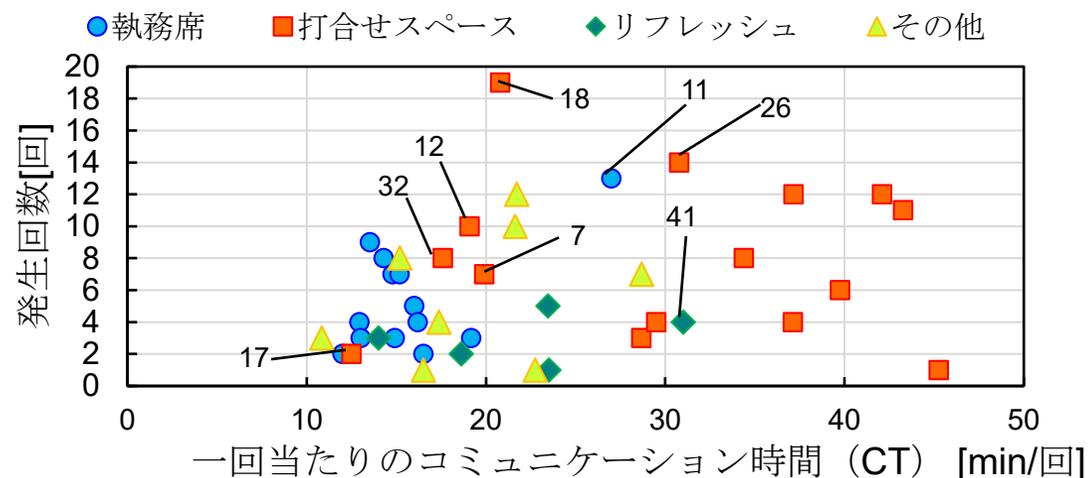
- ・ FCは打合せスペースでの発生回数が多い。
- ・ 執務席に囲われた打合せスペースは他の打合せスペースと比べて累積時間が短い、発生回数が多い傾向があった。

- ・ IFCは執務席周りでの発生回数が多い。
→働いている執務席から動かず行われる頻度が高い

調査結果 (R7年度SHASE大会にて報告)

エリア分類ごとのコミュニケーションの分析

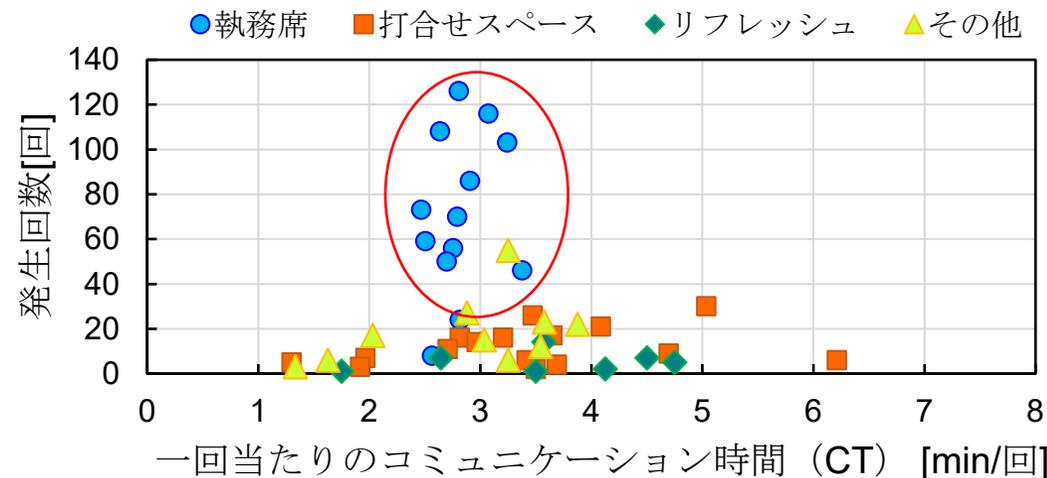
一回当たりのコミュニケーション時間(CT)[min / 回] = コミュニケーション総累計時間 [min] ÷ コミュニケーション総発生回数 [回]



フォーマルコミュニケーション(FC)

CTが短い場所ほど、発生回数が多くなる傾向があるのでは？

- ・ CTと発生回数には関係性が確認できなかった。
- ・ FCは30分/回以上のエリアは41番と打合せスペースに限られていた。
→CTが長くなる場合は積極的に
執務エリアから離れた打合せスペースを利用

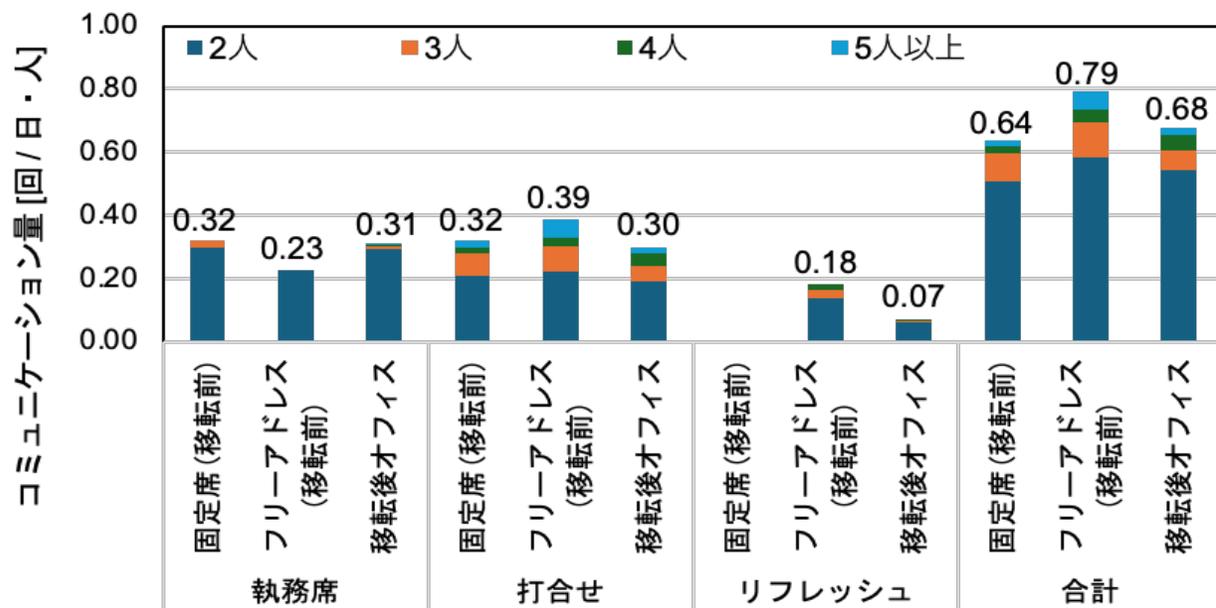


インフォーマルコミュニケーション(IFC)

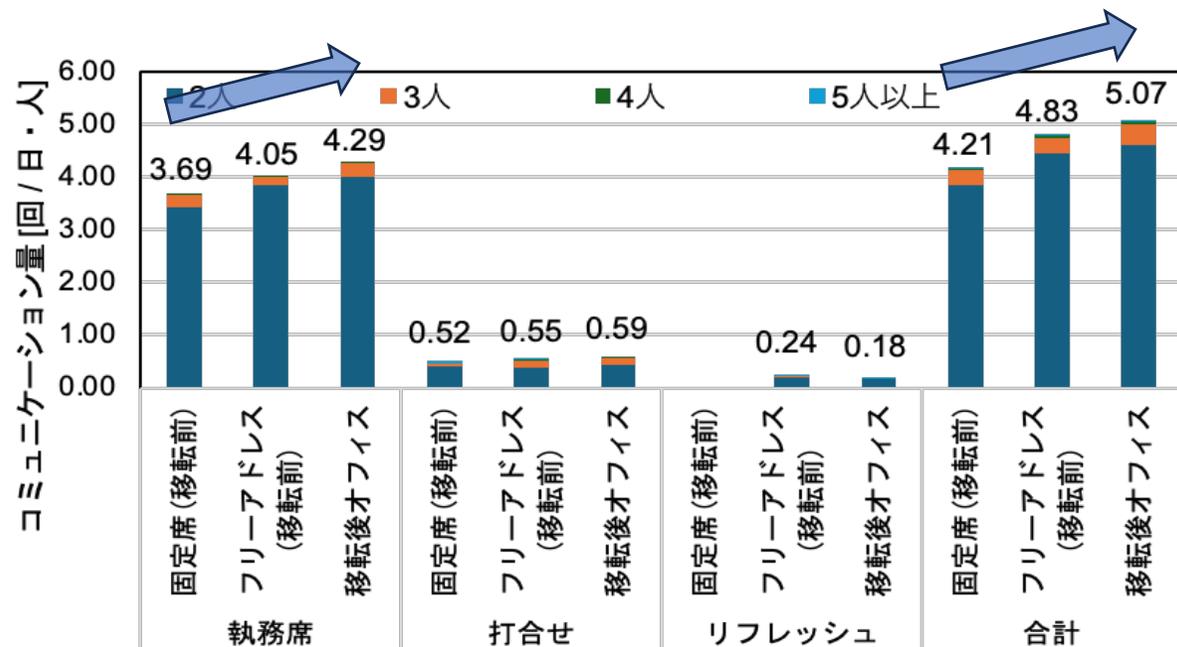


移転前後の比較

$$\text{コミュニケーション量 [回 / 人日]} = \text{コミュニケーション発生数累積値 [回]} \div \text{対象者数 [人]}$$



フォーマルコミュニケーション(FC)

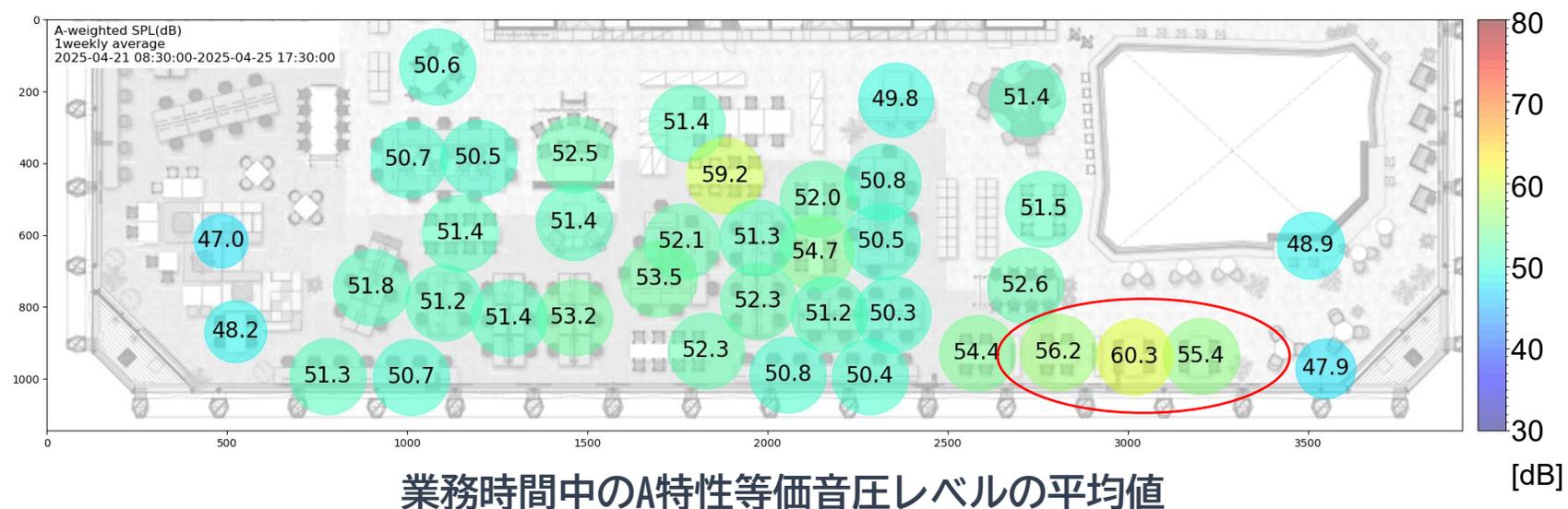


インフォーマルコミュニケーション(IFC)

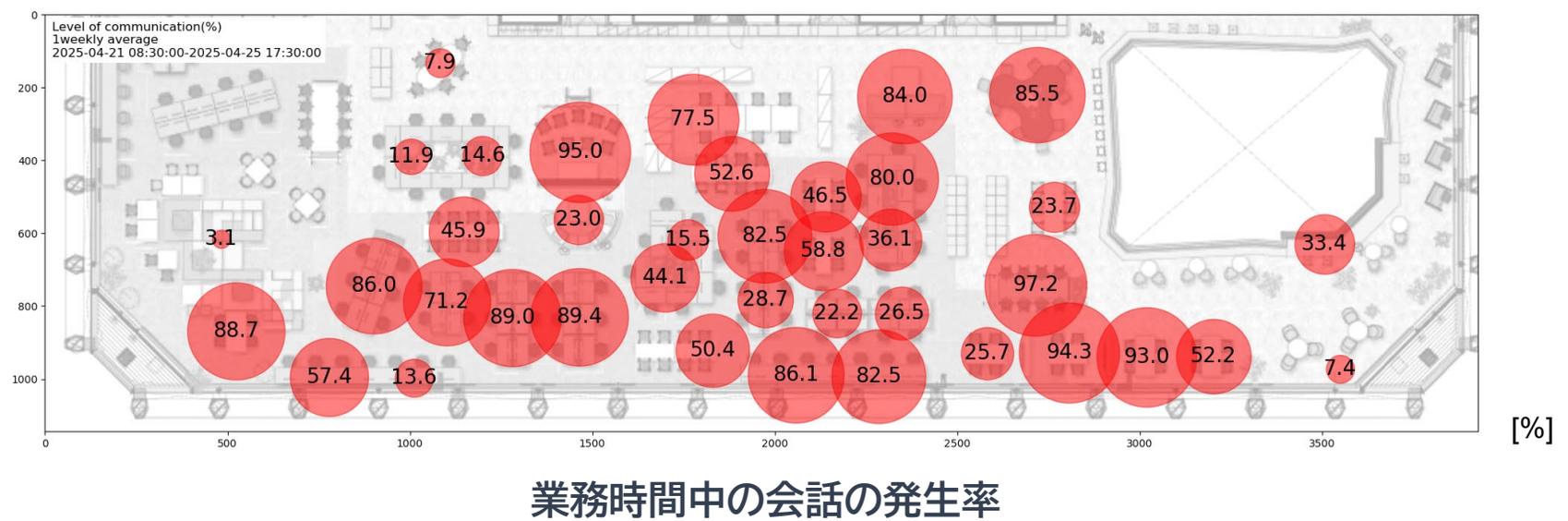
- ・ FCに関してはレイアウトや什器・働き方によってコミュニケーション量は変化しなかった。
→業務内容に依存していると考えられた。
- ・ 打合せスペースでは3人以上のコミュニケーションが40%であった。

- ・ IFCは執務席と合計のコミュニケーション量が固定席と比べて約2割ほど増加した。
→IFCはオフィスレイアウトや働き方に依存する可能性が示唆された。

音圧センサーによるコミュニケーション量



・音圧レベルは執務席周りと打合せスペースで高く、特に吹抜周りで大きい。
→執務席から離れている方が声を大きく出している傾向。



・会話の発生率は定点カメラで測定したコミュニケーション累積時間と概ね同じ場所で高くなった。

まとめ（R7年度SHASE大会にて報告）

本研究ではコミュニケーションと執務空間の関係性について新しい知見を得るため、定点カメラと音圧センサーによって、オフィス移転前後のコミュニケーション量と発生場所を調査した。

フォーマルコミュニケーションに与える影響

- ✓ オフィス移転前後・働き方の変化に伴うコミュニケーション量の変化を確認できなかった。
 - ➡ 執務空間から受ける影響は小さく、業務内容に依存してコミュニケーション量が増減すると推察された。

インフォーマルコミュニケーションに与える影響

- ✓ 執務席周りを中心に発生回数・累積時間が大きくなる。
- ✓ デスクがないエリアではコミュニケーション量が減少する傾向があった。
- ✓ 執務席から離れたエリアの打合せスペースの方が、コミュニケーション時間が長く、会話の声も大きくなる傾向があった。
 - ➡ レイアウトや働き方の影響を受けていることが示唆された。

今後は移動コスト、什器の種類、温熱などの環境要素にも焦点を置いて、分析を行う方針。

東海エリア初 WELLプラチナ取得、オフィス満足度・出社率向上

● WELL

- ブロンズ(必須全て+加点40点以上)
- シルバー(必須全て+加点50点以上)
- ゴールド(必須全て+加点60点以上)
- **プラチナ(必須全て+加点80点以上)**



ブロンズ



シルバー



ゴールド



プラチナ

● 移転前後で比較・分析

リモートワークを推奨しながらも、**出社率8%向上**

- ・ オフィス満足度 22.1点→**31.0点** (社会調査平均点23.8点)
平均以下だった評価が大幅にアップ!
- ・ 自律的な働き方 (リモートワーク) を運用しながらも、出社率18%向上
- ・ カジュアルなコミュニケーションの増加

社会調査
(n=1997)

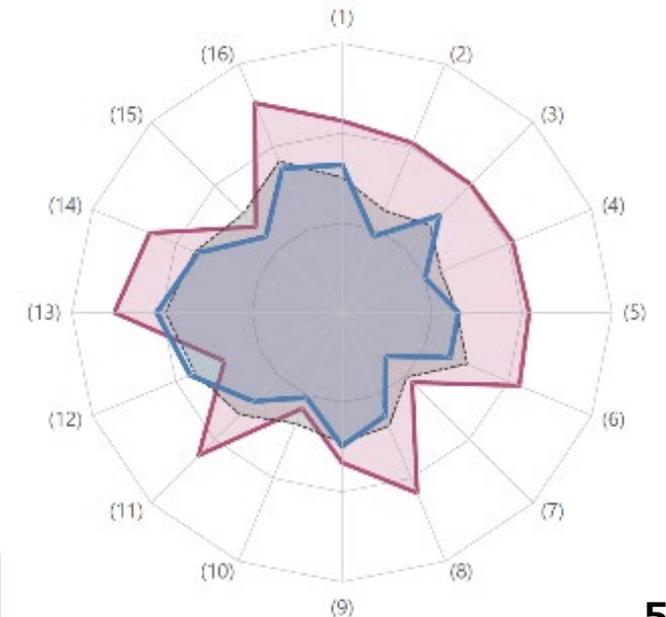
23.8 点

移転前
(n=258)

22.1 点

移転後
(n=244)

31.0 点



Fin.

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設